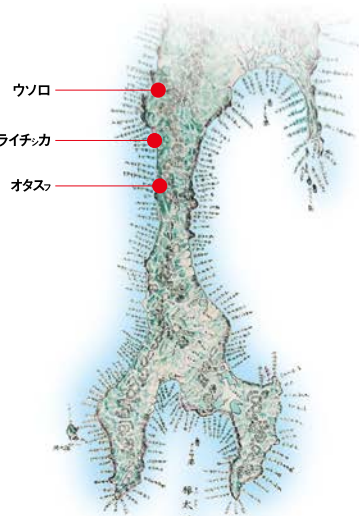


中級

# アイヌ語

カラフト

ウソロ  
ライチッカ  
オタス

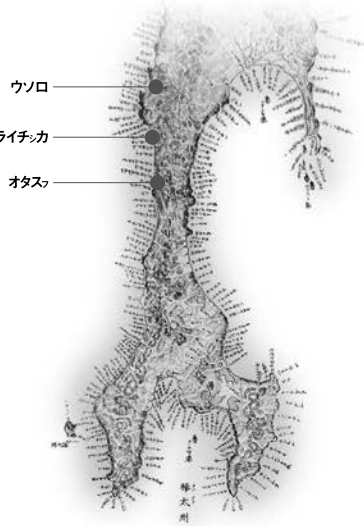


中級

# アイヌ語

カラフト

ウソロ  
ライチッカ  
オタス



公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

## このテキストについて

当公益財団では、2010年度にアイヌ語千歳方言、美幌方言、幌別方言の教科書を作成しました。2011年度は、前年度に作成された教科書を踏襲しつつ改良を加え、静内方言、釧路・白糠方言、十勝方言の教科書を新たに作成しました。今年度は更に、石狩川方言、沙流方言、カラフト方言の教科書を作成しました。

### 編集方針

このテキストは、アイヌ語の初歩を学んだ人が、文法的に少し踏み込んだ内容を学ぶための教科書として作成しました。ただし、この本から学習を始めたとしても問題の無いように、なるべく平易な説明をこころがけました。

文法の学習に加え、伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載しています。副教材としてカルタも添え、さまざまな角度から、楽しみながら言葉を身につけられるようにしています。

アイヌ語にはさまざまな方言があり、生活習慣も地域によって多少違います。そうした他地域の言葉・文化に関心を持ち、自分の地域についてもよく知るきっかけとなるよう、必要に応じて他方言についても解説しています。

### 例文と単語について

本書『中級アイヌ語－カラフトー』の例文と単語は、主に樺太西海岸の藤山ハル氏（来知志出身、1900-1974）、浅井タケ氏（小田洲出身、1902-1994）、沼端ウメ氏（鶴城出身、1895-1950年代？）ほか2名（小田洲出身）によって残された音声資料や文字資料に基いています。各ステップの例文は、資料の文例をそのまま掲載した場合がありますが、教科書執筆者による作例の場合もあります。また、各ステップで説明する内容に合わせ、比較的短く単純な用例を掲載しました。

なお作例した場合であっても、上記の話者による単語や類似した文例を参照しています。作例の表示方法については凡例で説明していますので、そちらをご覧ください。

### 音声について

アイヌ語の発音は日本語と異なっており、特に難しいところは、音声を聞きながら学習する必要があります。この本を教室等で利用するほか、家庭でも利用できるように、例文や単語、言葉あそび、歌などの音声を収録しました。収録に協力してくださったのは、普段は日本語で生活し、アイヌ語は学習によって身につけた方々です。一般に言葉を学ぶときには、もともとその言葉を使っている方から教わるのがよいとされており、これはアイヌ語においても同じことがいえます。しかし、そうしたアイヌ語の発音に触れる機会が少ない中で、最初の手がかりになればという考えから、音声を用意しました。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方、さらに学習を進めたい方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を参照されることをおすすめします。

この本を編集する過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。

#### 【例文・単語】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）  
高橋靖以（執筆協力）

#### 【文法解説】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）  
高橋靖以（執筆協力）

#### 【言葉遊び・歌】

北原次郎太

#### 【音声収録（五十音順）】

太田奈々、加納ルミ子、川上さやか、川村久恵、杉村フサ、竹内隼人、  
豊川容子、中井貴規、八谷麻衣、山道ヒビキ、山道陽輪、山本りえ

#### 【イラスト】

小笠原小夜、椎名庵



## 凡 例

- ・本書のアイヌ語の表記は、主に『アコロイタッ』（北海道ウタリ協会 1994）の表記法に基づくものです。ただし、一部異なる点があります。詳しくは「音節表」を参照してください。
- ・例文は全てカタカナ・ローマ字・逐語訳の併記としました。解説中の例には必要に応じてローマ字を記載し、他はカタカナのみとしました。
- ・カタカナ表記は実際の発音をわかりやすく示すことを意図したものです。一方、ローマ字表記は、辞書検索がしやすいように、個々の語を境界ごとに区切って示しました。
- ・アクセントを説明する際、アクセント位置を■で示しました。
- ・ローマ字表記において、人称接辞の境界を＝で示しました。また、音節の切れ目を'（アポストロフィー）で示す場合があります。
- ・ローマ字表記において、日本語の単語は大文字を用いて表記しました。
- ・例文の末尾に方言名を【 】内に略号で示し、口承文芸資料を使用した場合はジャンル名を示しました。略号は以下の通りです。

方言名： 来知志→来 小田洲→小 鶴城→鶴

口承文芸のジャンル： 散文説話→散 神謡→神 祈り詞→祈 歌謡→歌

※略式的なタイトルを示したところもあります。

／ フレーズの区切れ

∨ 折り節

- ・例文において、別の文や節に現れる主語、目的語などを（ ）を用いて示す場合があります。
- ・例文において、注釈が必要な場合には脚注で示しました。
- ・「単語を覚えよう」に掲載した単語のうち、他方言の資料から掲載した場合にはその典拠を脚注で示しました。

アイヌ語カラフト方言 中級編 目次

序文	2
凡例	5
音節表	8
① アイヌ語の発音と表記 1	10
② アイヌ語の発音と表記 2	12
③ 音の交替とアクセント	14
④ 「～が…する」「～は～である」平叙文	16
⑤ 「はい」「いいえ」で答える疑問文	18
⑥ 疑問詞を用いた表現 1	20
⑦ 疑問詞を用いた表現 2	22
⑧ 「…しない」否定文	24
単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～	26
さまざまなイポロセ 1	27
⑨ 「…しなさい」命令文 1	28
⑩ 「…しなさい」命令文 2	30
⑪ 「…するな」禁止文	32
⑫ 「私が」「君が」1人称・2人称単数主格	34
⑬ 「私達が」1人称複数主格	36
⑭ 「君達が」2人称複数主格	38
⑮ 「私を」「君を」目的格人称	40
⑯ 「私が君を」「君が私を」人称の組み合わせ	42
単語を覚えよう 2～様子を表す言葉 2～	44
さまざまなイポロセ 2	45
⑰ 尊敬の表現と不定人称	46
⑱ 「私」「君」人称代名詞	48
⑲ 動詞の単数・複数 1	50
⑳ 動詞の単数・複数 2	52
㉑ 動詞の単数・複数 3	54
㉒ 自動詞・他動詞・複他動詞	56
㉓ 「たくさん」「少し」副詞	58

24	位置関係の表現 1	60
	単語を覚えよう 3 ～動作を表す言葉 1～	62
	さまざまなイポロセ 3	63
25	位置関係の表現 2	64
26	場所の表現	66
27	所有の表現 1	68
28	所有の表現 2	70
29	親族関係の表現	72
30	形式名詞	74
31	連体修飾表現	76
32	「この」「その」「あの」連体詞	78
	単語を覚えよう 4 ～動作を表す言葉 2～	80
	さまざまなイポロセ 4	81
33	「～へ」「～から」格助詞	82
34	「～も」「～だけ」副助詞	84
35	「…した」「これから…する」助動詞	86
36	「…して」「…しながら」接続助詞 1	88
37	「…なので」「…すると」接続助詞 2	90
38	「…するように」接続助詞 3	92
39	接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1	94
40	接続助詞と動詞を組み合わせた表現 2	96
	単語を覚えよう 5 ～程度を表す言葉～	98
	さまざまなイポロセ 5	99
41	「…だよ」「…ですか」終助詞	100
42	形式名詞による文末表現	102
43	疑問の文末表現	104
44	「～と」引用の表現	106
	参考文献	108

## アイヌ語(カラフト方言)の音節(カタカナ表記)

### 【短母音／長母音】

ア／アー      イ／イー      ウ／ウー      エ／エー      オ／オー

### 【子音＋短母音／子音＋長母音】

カ／カー	キ／キー	ク／クー	ケ／ケー	コ／コー
サ／サー	シ／シー	ス／スー	セ／セー	ソ／ソー
タ／ター		トゥ／トゥー	テ／テー	ト／トー
チャ／チャー	チ／チー	チュ／チュー	チェ／チェー	チョ／チョー
ナ／ナー	ニ／ニー	ヌ／ヌー	ネ／ネー	ノ／ノー
ハ／ハー	ヒ／ヒー	フ／フー	ヘ／ヘー	ホ／ホー
パ／パー	ピ／ピー	プ／プー	ペ／ペー	ポ／ポー
マ／マー	ミ／ミー	ム／ムー	メ／メー	モ／モー
ヤ／ヤー	イ／イー	ユ／ユー	イエ／イエー	ヨ／ヨー
ラ／ラー	リ／リー	ル／ルー	レ／レー	ロ／ロー
ワ／ワー		ウ／ウー	ウェ／ウェー	ウォ／ウォー

### 【短母音＋子音】

アシ	イシ	ウシ	エシ	オシ
アン	イン	ウン	エン	オン
アハ	イヒ	ウフ	エヘ	オホ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アウ			エウ	オウ

### 【子音（例としてカ行の音）＋短母音＋子音】

カシ	キシ	クシ	ケシ	コシ
カン	キン	クン	ケン	コン
カハ	キヒ	クフ	ケヘ	コホ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カウ	キウ		ケウ	コウ

\* 例文の中で、前後の音によって発音が変化する場合、その発音を下線で示しました。

## アイヌ語(カラフト方言)の音節(ローマ字表記)

## 【短母音／長母音】

a / aa	i / ii	u / uu	e / ee	o / oo
--------	--------	--------	--------	--------

## 【子音＋短母音／子音＋長母音】

ka / kaa	ki / kii	ku / kuu	ke / kee	ko / koo
sa / saa	si / sii	su / suu	se / see	so / soo
ta / taa		tu / tuu	te / tee	to / too
ca / caa	ci / cii	cu / cuu	ce / cee	co / coo
na / naa	ni / nii	nu / nuu	ne / nee	no / noo
ha / haa	hi / hii	hu / huu	he / hee	ho / hoo
pa / paa	pi / pii	pu / puu	pe / pee	po / poo
ma / maa	mi / mii	mu / muu	me / mee	mo / moo
ya / yaa	yi / yii	yu / yuu	ye / yee	yo / yoo
ra / raa	ri / rii	ru / ruu	re / ree	ro / roo
wa / waa		wu / wuu	we / wee	wo / woo

## 【短母音＋子音】

as	is	us	es	os
an	in	un	en	on
ah	ih	uh	eh	oh
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
aw	iw		ew	ow

## 【子音(例として k)＋短母音＋子音】

kas	kis	kus	kes	kos
kan	kin	kun	ken	kon
kah	kih	kuh	keh	koh
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kaw	kiw		kew	kow

※母音＋mの音節はしばしば母音＋nのように発音され、新しい世代の話者ほどその傾向が強いと言われています。本書の中ではそれぞれの資料の発音・記載どおりに表記することとし、統一はしていません。

## ステップ1 アイヌ語の発音と表記1

\*ステップ1～3は、北海道方言も含めたアイヌ語全体に適用可能な説明となっているため、カラフト方言にはない単語が例示されている所もあります。

### アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音(a, i, u, e, o)と11の子音(c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y)の組み合わせでできています。これらの音を表記する場合、カタカナまたはローマ字が用いられます。

### 音節（音の組み合わせ）

音の組み合わせのパターンには、次の4つがあります。

- |           |                |
|-----------|----------------|
| ①母音       | ア a 「～が座る」     |
| ②子音+母音    | マ ma 「～が泳ぐ」    |
| ③母音+子音    | エク ek 「～が来る」   |
| ④子音+母音+子音 | チック cik 「～が滴る」 |

このような音の組み合わせの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。

### 発音と表記のポイント

開音節について、発音と表記のポイントを説明します。

- (1)「母音」は「ア a, イ i, ウ u, エ e, オ o」、「長母音」は「アー aa, イー ii, ウー uu, エー ee, オー oo」で表記します。母音の発音は、日本語とほぼ同じですが、「ウ」は日本語よりもやや口の奥で発音されます。そのため、聞き取りが難しくなることがあります。地域や個人によっても多少発音が異なります。

長短の区別は、ゆっくり単語だけを発音するときは明瞭になりますが、文中や文末では口調により変化します。

- ① 文末では、短母音が長く発音されることがあります。  
② 長母音の後に別の単語が続くと、長母音が短く発音されることがあります。

ネー nee 「～が～である」 ヤ ya 「…か？」

→ヘマタ エキー ヘタネヤー？

hemata e=kii heta nee ya ?

「君は何をしていたのかい？」

エー ee 「～が～を食べる」 イーケ iike 「…して」

→ハン エーイケ

han ee iike 「～を食べないで」

- (2)「子音＋母音」は日本語のカ行以降のカタカナと同じように書き表します。ただし、カ行とガ行、タ行とダ行、パ行とバ行の区別（無声音と有声音の区別）はアイヌ語にはありません。また、サ行とシャ行の区別もありません(例えば、**スサム susam**「シシャモ」を「シュシャム」と発音しても、言葉の意味は変わりません)。
- (3)タ行は「タ **ta**, トゥ **tu**, テ **te**, ト **to**」です。「ティ **ti**」の音はアイヌ語では用いられません。
- (4)チャ行は「チャ **ca**, チ **ci**, チュ **cu**, チェ **ce**, チョ **co**」と表記されます。
- (5)ヤ行は「ヤ **ya**, イ **yi**, ユ **yu**, イェ **ye**, ヨ **yo**」です。イェは、「イ」と「エ」をつなげて発音します。なお、「イ **yi**」は単語の先頭には現れません。**yi** は **y** で終わる形と **i** で始まる形が、単語の中で続いた場合にあられます。
- (6)ワ行は「ワ **wa**, ウ **wu**, ウェ **we**, ウォ **wo**」です。「ウェ」は「ウェブ」の「ウェ」のように、「ウ」と「エ」をつなげて発音します。「ウォ」は「ウ」と「オ」をつなげて発音します。なお、「ウ **wu**」は単語の先頭には現れません。**wu** は **w** で終わる形と **u** で始まる形が、単語の中で続いた場合に現れます。

## ステップ2 アイヌ語の発音と表記2

### 音節末の子音の表記

閉音節について、表記のポイントを説明します。

(1)閉音節の末尾には、**h, k, m, n, p, r, s, t, w, y**が現れます。**c**は閉音節の末尾には現れません。**h**が閉音節の末尾に現れるのは、主にカラフト方言です。

(2)カタカナでは、閉音節の末尾の音を小文字で表記します。

閉音節の末尾の**h**の音は、前の母音と対応するハ行の小文字で表記します。**h**の音は軽く息を吐く音です。なお、イ*i*の後で発音される**h**は*s*のように響くこともあります。が、**h**で表記します。

タハ *tah* 「シラカバ」 チヒ *cih* 「船」 クフ *kuh* 「帯」

チェヘ *ceh* 「魚」 ホホ *hoh* 「〜が〜を買う」

(3)閉音節の末尾の **k, m, p, s, t** は小文字の「**ク、ム、フ、シ、ッ**」で表記します。

サク *sak* 「〜が〜を欠く」 モム *mom* 「〜が流れる」 フフ *hup* 「〜が腫れる」

チシ *cis* 「〜が泣く」 サッ *sat* 「〜が乾く」

(4)**m**の後に **p**が続くときは「**ン**」で表記します。

トウンブ *tumpu* 「部屋」 サンペ *sampe* 「心臓」

(5)閉音節の末尾の **r** は、前の母音と対応するラ行の小文字で表記します。**r**の音は、軽く舌尖ではじくような発音です。

カラ *kar* 「〜が〜を作る」 ピリ *pir* 「傷」 クル *kur* 「人、影」 ケレ *ker* 「履物」

コロ *kor* 「〜が〜を持つ」

(6)**n, w, y**は子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン *ran* 「〜が下りる」 マウ *maw* 「風」 スイ *suy* 「穴」

なお、この方法では、「イ」に **y** と **i**、「ウ」に **w** と **u** という二つの音が割り当てられることとなります。これを避けるために、**w** や **y** にあたる部分を小文字で表記する方法もあります。

マウ *maw* 「風」 スイ *suy* 「穴」

(7)子音の連続 **-kk-**, **-tk-**, **-pp-**, **-ss-**, **-tp-**, **-tt-** は「ッ」で表記します。カタカナでは「ッ」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。

**ワッカ wakka** 「水」 **ウッカ utka** 「浅瀬」 **チカッポ cikappo** 「小鳥」  
**ミッポ mitpo** 「孫」 **エカッタラ ekattar** 「子供達」

なお、音の違いをより厳密に表記するという立場もあり、それに従うと、上記の単語はこのように表記されます。

**ワッカ wakka** 「水」 **ウッカ utka** 「浅瀬」 **チカ<sup>ポ</sup> cikappo** 「小鳥」  
**ミッ<sup>ポ</sup> mitpo** 「孫」 **エカッタラ ekattar** 「子供達」

## ステップ3 音の交替とアクセント

### 音の交替

アイヌ語では、単語の最後の音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が交替することがあります。

トウム tum 「(密集した物)の中、間」 + ケ ke 「(長形語尾)」  
→ トウンケ tum ke 「(密集した物)の中、間 (長形)」

サム sam 「~のそば」 + タ ta 「~に」  
→ サンタ sam ta 「~のそばに」

モコロ mokor 「~が眠る」 + ルスイ rusuy 「…したい」  
→ モコン ルスイ mokor rusuy 「~が眠りたい」

ウサラ usar 「下座」 + タ ta 「~に」  
→ ウサツ タ usar ta 「下座に」

ナンコロ nankor 「…だろう」 + ナ na 「…だよ」  
→ ナンコン ナ nankor na 「…だろうよ」

モム mom 「~が流れる」 + ワ wa 「…して」  
→ モム マ mom wa 「~が流れて」

このような音の交替には、方言による差がみられます。ひとつずつ事例を覚えていきましょう。

このテキストでは、音が交替するときは、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

### 音の連結

閉音節の単語（子音 h で終わる単語）の後に母音で始まる単語がくると、h が別の子音 (p,t,k,r) に変化します。どの音に替わるかは、単語によって決まっています。

チェヘ ceh 「魚」 エー ee 「~が~を食べる」  
→ チエペー ceh ee 「~が魚を食べる」

イタハ itah 「話す」 アン =an 「私達が」  
→ イタカン itah =an 「私達が話す」

その他の子音で終わる単語の後に、母音で始まる単語がくると、二つの単語が続けて発音されることがあります。

アサンカラ Asankar 「旭川」 エネ ene 「～へ」  
→ アサンカレネ Asankar ene 「旭川のところへ」

アン an 「～がいる」 イーケ iike 「…して」  
→ アニーケ an iike 「～がいて」

このテキストでは、音が続けて発音される場合も、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

### アクセント

アイヌ語のアクセントには、次の2つの規則があります。

(1)最初の音節が単母音の開音節のときは、2番目の音節が高く発音されます。

サパ sapa 「頭」 モコロ mokoro 「～が眠る」

(2)最初の音節が長母音または閉音節のときは、最初の音節が高く発音されます。

レーラ reera 「風」 フーレ huure 「赤い」  
マーレへ maareh 「鉤鉾」 ウーナ uuna 「灰」  
アイヌ aynu 「人間」 アハトゥリ ahturi 「ヤチブキ」 スンク sunku 「エゾマツ」

## ステップ4 「～が…する」「～は～である」平叙文

(例文)

1. チセ サマケ タ ポロ プー アン。  
 cise samake ta poro puu an.  
 家 のそば に 大きい倉 ある  
 家のそばに大きな倉がある【鶴・散】
2. オスケヘ シネヘ チャハセ ワ サン。  
 osukeh sineh cahse wa san.  
 ウサギ 1つ 走る して 下りる  
 ウサギが1羽走って下りてきた【小・散】
3. ウェン チョカ ヘカチ サシ ネーノ ウェン ホホト パテヘ ミー\*。  
 wen coka hekaci sas neeno wen hohto pateh mii.\*  
 貧しい 子供 昆布 のような ひどい 着物 ばかり 着る  
 貧しい男の子は、昆布のようなぼろぼろの着物ばかり着ていた【鶴・散】
4. ナイ オンナイケ タ チェヘ ポロンノ アン クス マーレヘ アニ コイキ\*。  
 nay onnayke ta ceh poronno an kusu maareh ani koyki.\*  
 川 の中 に 魚 たくさん いる ので 鈎鉈 を用いて とる  
 川の中に魚がたくさんいたので、鈎鉈で獲った【鶴・散】
5. フシコ オロワ ヘンケ ウタハ カムイ サンケヘチ クー ネー。  
 husko orowa henke utah kamuy sankehci kuu nee.  
 昔 から 先祖 達が クマ を下げる 弓 である  
 昔から先祖達がクマを(山から)下ろすのに使った弓である【鶴・散】

## 「～が…する」「～は～である」の言い方

(初級ステップ6参照)

「～が…する」「～が～である」のようなタイプの文を平叙文と呼びます。平叙文には、主に次のようなタイプがあります。

主語（名詞）＋自動詞

主語（名詞）＋目的語（名詞）＋他動詞

主語（名詞）＋補語（名詞）＋指定詞（ネー **nee** 「～が～である」）

上記のように、主語や目的語などの名詞は動詞の前に置かれます。なお、アイヌ語では主語や目的語を示す「が」や「を」という言葉はつきません。また、動詞には「…する」「…した」のような現在と過去の区別はみられません。

なお、「～が～である」という文では、「～である」に入る名詞を強めに言って、そこで文を止めることがあります。

## ステップ5 「はい」「いいえ」で答える疑問文

(例文)

1. イモカ?

imoka?

土産

「御土産だって？」【小・散】

2. ター           ヘカチ           エワンテヘ?

taa           hekaci           e=wantehe?

あの           男の子           君・知っている

「君、あの子を知っているか？」【小】

3. ハハ           エコロ?

hah           e=koro?

クロユリ   君持つ

「クロユリの球根持つてる（ある）？」【鶴・散】

4. ター           ヌチャ           ウタハ           ヘー?

taa           nuca           utah           he?

あれ           ロシア人           達           か

「あの人達はロシア人か？」【小】

5. タニ           ピリカ           ヘヤ?

tani           pirika           he ya?

今           良い           ～か

「もう良くなったか？」【小】

## 「はい」「いいえ」で答える疑問表現

(初級ステップ9参照)

「～か」という疑問文にはいくつかのパターンがあります。以下では「はい」「いいえ」で答える疑問文について説明します。

- (1) 名詞や、動詞で終わる平叙文を同じ形のまま、疑問文として使うと「はい」「いいえ」で答える疑問文になります(例文1, 3)。樺太方言では、疑問文で語尾が下がるように発音されることがありますが、同じ文でも場面に応じて高く発音されることもあります。どのような場合に上るか下るか、またニュアンスの違いにどう関わるかなどはよく分っていません。
- (2) 名詞や名詞化した動詞の後にへ **he** 「～か」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文がつくこともできます(例文2,4)。
- (3) 動詞の後にヤ **ya** 「～か?」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文をつくることもできます。例文4の **he** と組み合わせることもあります(例文5)。

これらの疑問に答える場合、「はい」ならば**エー ee**、または**シーナアン siina`an**、「いいえ」ならば**イサム isam**、または**ハンネヘカ hannehka**という言葉が用いられます。

## ステップ6 疑問詞を用いた表現1

(例文)

1. タアハ ナータ コロ ペ ヘ?
   
taah naata koro pe he?
   
あれ 誰 持つ もの か
   
「あれは誰のものか」【来】
  
2. ネ アイヌ クル エヌカラ? ネ セタ クル エヌカラ?
   
ne aynu kuru e=nukara? ne seta kuru e=nukara?
   
何か 人 姿 君・が見る 何か イヌ 姿 君が・見る
   
「何か人影を見たか?何かイヌの影を見たか?」【小・散】
  
3. ナハ タ エモンライキヒ ?
   
nah ta e=monraykihi ?
   
どこ で 君が・働くこと
   
「君はどこで働いているの?」【来】
  
4. ヘンパハ チュフ カ ヘンパハ パー カ クオマナン。
   
hempah kuh ka hempah paa ka ku=omanan.
   
いくつ 月 も いくつ 年 も 私が・旅をする
   
「私は何ヶ月も何年も旅をした」【来】
  
5. ナハタアンペ エチコヌプル?
   
nah ta an pe eci=konupuru?
   
どちら 君達が・欲しい
   
「君達どっちが欲しい?」【小・散】

## 疑問詞を用いた表現 1

(初級ステップ11参照)

このステップでは、疑問名詞、疑問連体詞を用いた疑問文について説明します。

- (1) 疑問名詞には以下の種類があります。これらの疑問名詞は動詞の前に置かれ  
たり、終助詞を伴うことにより、様々な疑問の意味を表します。

ナータ naata 「誰」 ヘマタ hemata 「何」 ナハ nah 「どこ」

※ヘマタのほかに、ネへneh とネーラアンペ neera anpe も「何」と訳されます。  
これらは「何か、何でも」など、不特定のものを指します。

・ヘマタ hemata 「何」

相手が思い浮かべている特定の「何か」をたずねる場合

ヘマタ エコンルスイ? 「君は何が欲しい?」

hemata e=konusuy?

・ネへneh ・ネーラ アンペ neera anpe 「何(か)、何(でも)」

ネへヌーレワ。 「何か聞かせて。」

neh nuure wa.

ネーラ アンペ ネヤハカ ピリカ。「何でも良い」

neera anpe neyahka pirika.

※「どこ」と訳される言葉には3種類あります。日本語訳ではどちらも「どこ」と訳されるので注意しましょう。

・ナハ nah ～ナコロ (-ケ、-ヘ) nakoro (-ke, -he) 「どこ」

出身地・所在地・目的地など、あらかじめ決まっている場所を聞く場合

オトオープンペ ナハタ アニヒ? 「お菓子はどこにある?」

otoopenpe nah ta anihi?

・ネー nee 「どこ(か、も)」

ネオロ (-ケ、-ヘ) neuro (-ke, -he) 「どこ(か、も)」

不特定の場所をさす場合

ネータカ クオマヌワ チヒ クフナラクス。「どこかに行って船を探そう。」

nee ta ka ku=oman wa cih ku=hunara kusu.

ネオロ カアラカ カハンキー。 「どこも痛くない」

neuro ka araka ka han kii.

- (2) 疑問連体詞には以下の種類があります。これらの疑問連体詞は名詞の前に置  
かれ、様々な疑問の意味を表します。

ネ ne 「いずれかの、何かの」 ヘンパハ hempah 「いくつの」

ナコルン nakoroun 「どこの」

ナハタ アン nah ta an 「(目の前にあるうち) どちらの」

ナハワ アン nah wa an 「(目の前にないものを話題にして) どちらの」

## ステップ7 疑問詞を用いた表現2

(例文)

1. ナハ ワ エヘ ホロケウポ ヘタ ネ ヤ?  
 nah wa eh horokewpo heta nee ya?  
 どこ から 来る 若者 であるか  
 「どこから来た若者だろうか」【小・散】
2. タラノカ チカハ ウタハ ナケネ パイエヘチヒ? \*  
 taranoka cihak utah nah ene payehcihi?  
 あの 鳥 達 どこへ 行く  
 「あの鳥達はどこへ行くの?」
3. ヘンパラ エホシピ クス? \*  
 hempara e=hosipi kusu?  
 いつ 君が・帰る つもり  
 「いつ帰る?」
4. ター ヘカチ ヘンパラ カンネ イサンカ、 アハスイ クヌカラ。\*  
 taa hekaci hempara kanne isanka ahsuy ku=nukara.  
 あの 子供 いつか 1度 私が・見る  
 「あの子に、いつだったか1度会った。」
5. タン ナイ レーヘ テマナ アン ペ?  
 tan nay reehe temana an pe?  
 この 川 の名前 どのように ある こと  
 「この川の名前はなんというの?」【小・散】
6. オホカヨ フナラ クス ネエネ カ オマン。  
 ohkayo hunara kusu neene ka oman.  
 男性 ~を探す ために どこへ か 出かける  
 「夫を探しにどこかへ行く」【小・散】
7. ネーラ カ クキー ワ テキヒ ナー ポカ クキシマ ルスイ。  
 neera ka ku=kii wa tekihi naa poka ku=kisma rusuy.  
 どう か 私が・する して の手 も でも 私が・握る したい  
 「どうにかして (あの女性) の手だけでもにぎりたい」【来・歌】

## 疑問詞を用いた表現 2

(初級ステップ26～27参照)

このステップでは、疑問副詞と、副詞的表現を用いた疑問文について説明します。疑問副詞的な表現は、**ナハ**「どこ」などの疑問名詞と、**ワ wa**「～から」、**エネ ene**「～へ」などの格助詞を組み合わせて作られます。

- (1) 疑問副詞には以下の種類があります。これらの疑問副詞は動詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

**テマナ temana** 「どう」、**ヘンパラ hempara** 「いつ」

**ナハワ nah wa** 「どこから」 **ナケネ nah ene** 「どこへ」

- (2) **ヘンパラ**は、「いつでも、いつか」など不定の表現にも用いられます(例文4)。不定の「どこ」には**ナケネ**が用いられることもありますが、**ネエネ nee ene**、**ネーワ nee wa**も用いられます。不定の「どう」の表現では**ネーラ neera**が用いられます。

・**ネエネ nee ene** 「どこ(か)へ」

**ネエネ カ クオマン クウタサ。** 「どこかへ行って遊ぶ」  
nee ene ka ku=oman ku=utasa.

・**ネーワ nee wa** 「どこかから」

**ネーワ エヘ アイヌ カ ウェーチワハチ。** 「どこから来る人でも集まった」  
nee wa eh aynu ka weeciwahci.

・**ネーラ neera** 「どう(か)」

**ネーラ クフンケ ヤハカ タンヘカチ ナールイ チシ。** 「どうやってあやしても  
neera ku=hunke yahka tan hekaci naaruy cis. この子はますます泣く。」

**ネーラ カ イェー カ ハンキー テヘモコロ ヘマカ。** 「何とも言わずに  
neera ka yee ka han kii teh mokoro hemaka. 寝てしまった。」

## ステップ8 「…しない」否定文

(例文)

1. エナハカリ ネ アイヌ カ ハンネヘカ オマン。  
 en=ahkari ne aynu ka hannehka oman.  
 私・より どの 人 も (否定) 行く  
 「私のほかに誰も行かない」【来】

2. アンワンテ カ ハン キー。  
 an=wante ka han kii.  
 私・がわかる も (否定) する  
 「私はわからない」【小】

3. クワンテ イサム。  
 ku=wante isam.  
 私・がわかる ない  
 「私はわからない」【小】

4. クアニ ネアンペ アイヌ カ ハンネヘカ、エンチウ カ ハンネヘカ クネー。  
 kuani neanpe aynu ka hannehka enciw ka hannehka ku=nee.  
 私 は 人 も (否定) 人 も (否定) 私・である  
 「私は人間ではない」

ニシクル カムイ ヘンケ クネー。  
 niskuru kamuy henke ku=nee.  
 雲の 神 お爺さん 私・である  
 「私は雲の神の翁なのだ」【来・散】

5. メーライケアン カ ハン キー。\*  
 meerayke=an ka han kii.  
 寒い・私が も (否定) する  
 「私は寒くない」

## 「…しない」の言い方

(初級ステップ7参照)

「…しない」「～ではない」などの否定の表現には**ハンネヘカ hannehka** という副詞を動詞の前に置かれます。

(1)例文1では**オマン oman**「～が行く」という動詞の前に**ハンネヘカ**が置かれ、「行かない」という否定文がつくられています。

(2)また、動詞の後ろに**カ ハン キー ka han kii**「…しない」というフレーズ(例文2,5)や、**イサム isam**をつけて否定の意味を表すこともできます(例文3)。

**カ ka**は否定の焦点を示す副助詞で、省略されることもあります(副助詞についてはステップ34を参照してください)。

## 単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～

- |     |        |             |         |
|-----|--------|-------------|---------|
| 1.  | ピリカ    | pirika      | 「～が良い」  |
| 2.  | ウェン    | wen         | 「～が悪い」  |
| 3.  | ポロ     | poro        | 「～が大きい」 |
| 4.  | ポン、ハチコ | pon, haciko | 「～が小さい」 |
| 5.  | オタンネ   | otanne      | 「～が長い」  |
| 6.  | オタハコン  | otahkon     | 「～が短い」  |
| 7.  | セルシ    | serus       | 「～が太い」  |
| 8.  | アーネ    | aane        | 「～が細い」  |
| 9.  | エハンケ   | ehanke      | 「～が近い」  |
| 10. | トゥイマ   | tuyma       | 「～が遠い」  |

## さまざまなイロセ 1

沙流・静内地方

◇富川 年賀状の文

① タアン アシリ パソンノ ヌペツネノ

taan asir pa sonno nupetneno

この新しい年に心から慶びながら

アコシキリパ。サクパ オッタ

a=kosikirpa. sakpa or ta

向かいます。(今年の) 夏期と

ネノカネ ピリカスクナアン クニ

nenokane pirkasukup=an kuni

同様に健やかな暮らしをなさるよう

カムイ オルン クオンカミ ナ。

kamuy orun ku=onkami na.

カムイに祈念申し上げます。

(書き手:鍋沢元蔵さん)

※下線部分にあたる別の言い方としてアシリパアウツワシノケヤイコブンテクナ「新しい年を取り、本当に嬉しく思っています」という表現もあります。

◇東静内 年賀状の文

アシリパ オッタ ヌプルカンピ

asir pa or ta nupurkampi

新年にあたっての尊いお手紙(賀状)に

パセノポ クオンカミ ナ。

pasenopo ku=onkami na.

丁重に拝礼します。

ピリカ アシリ パアノシキル キワ

pirka asir pa an=osikiru ki wa

良い年をお迎えになり

イワンケアン ワ ピリカモンライケアン クニ

iwanke=an wa pirkamonrayke=an kuni

お達者で、良いお仕事をなさいますように

クオンカミ ナ。パセノポ イヤイライケレ。

ku=onkami na. pasenopo iyayraykere.

ご祈念申します。誠にありがとうございます。

(書き手:佐々木太郎さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

## ステップ9 「～しなさい」 命令文1

(例文)

1. テー タ エヘ ワ。  
tee ta eh wa.  
ここ に が来る よ  
「ここに来てよ」【来・歌】
2. ホクレ イペ。 トーナシ カンネ イペ。\*\*  
hokure ipe. tuunas kanne ipe.  
さあ に 食事する 急いで 食事する  
「さあ食べなさい。急いで食べなさい」
3. タアハ ウフ ワ エヘテ カンネ。  
taah uh wa ehte kanne.  
それ をとる して よこす ～ね  
「それを取って持ってきてね」【来】
4. シキヒ アンパ カンネ  
sikihi anpa kanne  
その目 ～を持つ ～ね  
「その目玉を持って来なさいね」【鶺鴒・散】
5. ニー トウラ アフン。  
nii tura ahun.  
木 と一緒に 入る  
「(家に) 薪持って入れ」【小】

## 「…しなさい」の言い方1

(初級ステップ12参照)

「…しなさい」という命令文には、いくつかのパターンがあります。

- (1) 命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます(例文2,5)。  
命令表現は相手に向かって発するものですが、命令する相手を表す人称接辞(ステップ12参照)はつきません。例えば、**エヌカラ e=nukara**「あなたが見る」という表現は、「見なさい」という命令の意味では通常用いられません。
- (2) 動詞の後に**ワ wa**「(…し)てよ」という終助詞を続けると、少し柔らかい命令表現になります(例文1)。
- (3) 念を押すような命令の表現には、**カンネ kanne**「(…しなさい)ね」という終助詞が用いられます(例文3,4)。なお、自然な早さで話すときにはンがほとんど聞き取れず、**カネ kane**のように聞こえます。

## ステップ10 「…しなさい」 命令文2

(例文)

1. イサンケカムイ    ネヤハカ    イカシ    オインカラ    ヤン。  
 isankekamuy    neyahka    i=kas    oinkara    yan.  
 狩獵の神                      であっても    私の・上    を見守る    なさい  
 「狩獵の神も、私の上を見守ってください」【鶴・散】
  
2. ヌツツチャー    アンカラ    クス    クー    ヤヌワー。  
 nuhcacaa    an=kara    kusu    kuu    yan\_wa.  
 イソツツジ茶                  私・が作る    ので    飲む    なさいよ  
 「イソツツジ茶を入れたから飲みなさいよ」【小】
  
3. ピリカノ    オカヤヌワ。  
 pirikano    okay    yan\_    wa.  
 良く                  いる    なさい    よ  
 「達者でいなさいよ (=さようなら)」【来】
  
4. イペ                  ヤン                  カンネ。  
 ipe                  yan                  kanne.  
 食事する                  なさい                  ～ね  
 「食事なさいな」【来】
  
5. シンマ                  ニサハタ                  エヌマ                  エヌカラ                  ナンコホ。  
 simma                  nisahta                  e=numa                  e=nukara                  nankoh.  
 明日                  朝                  君・が起きる                  君・が見る                  だろう  
 「明日の朝起き (たら) 見なさい」【鶴・散】

## 「…しなさい」の言い方2

(初級ステップ12参照)

このステップでは、複数の相手に対する命令表現、丁寧な命令の表現について説明します。

- (1) 複数の相手に対する命令には、**ヤン yan** 「…しなさい」という終助詞が用いられます(例文1)。なお、単数と複数の区別がある自動詞の場合、ヤンは複数形の動詞の後につけられます(例：**アリキ ヤン ariki yan** 「来なさい(アリキはエへの複数形)」)。
- (2) ヤンを単独の相手に対して用いると、丁寧な命令の表現となります。
- (3) ヤンの後に、ステップ9の**ワ wa カンネ kanne** を組み合わせて用いることがあります。ヤンワは、ヤヌワと発音されることがあります(例文2,3)。ヤンカンネの方がより丁寧な表現だと考えられます(例文4)。
- (4) **ナンコホ nankoh** / **ナンコロ nankoro** 「…するだろう」という助動詞を用いると、遠まわしな命令の表現となります(例文5)。なお、ナンコホ/ナンコロを用いた命令表現では、例外的に命令する相手を表す人称接辞がつけられます。

イナウ エカラ ランケ コムセアハチ エイエー カンネ エオマンテ ナンコホ。

inaw e=kara ranke komuse ahci e=yee kanne e=omante nankoh.

イナウを作るたびに、クモのお婆さん(と)言いながら(イナウを)送るんだよ。

エネ パー アシン ネーノ エキー ナンコホ。

ene paa asin neeno e=kii nankoh.

毎年のようにそうするんだよ。[鶉・散]

## ステップ11 「…するな」禁止文

(例文)

1. ハンカ オマン。  
 hanka oman.  
 禁止 が行く  
 「行くな」【来】
  
2. アイイエーヘ ネーノ キー ワ。 ハンカ オイラ カンネ キー。  
 an\_yeehe neeno kii wa. hanka oyra kanne kii.  
 私・言うこと によく する よ 禁止 忘れる しつつ する  
 「私がいった通りにしなさいよ。忘れずにやりなさい」【来・散】
  
3. タン ヘカチ ハンカ キラレ ヤン。  
 tan hekaci hanka kirare yan.  
 この 子供 禁止 逃がす なさい  
 「この子を逃がさないで下さい」【鶴・散】
  
4. チシポ ホクフ ハンカ ワンテレ ヤン。  
 cispo hokuhu hanka wantere yan.  
 虫の名 の夫 禁止 わからせる なさい  
 「チシポと夫に悟られてはいけません」【鶴・散】
  
5. ハンカ エトゥンネ ヤン カンネ。  
 hanka etunne yan kanne.  
 禁止 いやがる なさい ~ね  
 「嫌がりなざるな」【小・散】

## 「…するな」の言い方

(初級ステップ12参照)

「…するな」という禁止の表現には**ハンカ hanka**という言葉が用いられます。

- (1)ハンカは副詞であり、動詞の前に置かれます。例文1では**オマン oman**「～が行く」という動詞の前にハンカが置かれ、「行くな」という禁止の表現がつけられています。なお、命令の表現と同様に、禁止の表現においても聞き手を表す人称接辞はつけられません。
- (2)また、禁止の表現にも、**ワ wa**や**ヤン yan**、**カンネ kanne**などの命令を表す終助詞をつけることができます(例文2～5)。

## ステップ12 「私が」「君が」 1人称・2人称単数主格

(例文)

1. チヨホタ クアン。  
 cohta ku=an.  
 家の所に 私・がいる  
 「私は家にいた」【鶇・散】
2. エヌー ルスイ ペ タニ クイエー チキ ピリカノ ヌー ワ。  
 e=nuu rusuy pe tani ku=yee ciki pirikano nuu wa.  
 君が・聞く したい こと 今 私が・言う したら 良く 聞く よ  
 「君が聞いたがっていることを今私が言うから良く聞けよ」【来・散】
3. エポロ クン オホタ ヘンケ カワリニ エアン クス カムイ  
 e=poro kun ohta henke kawarini e=an kusu kamuy  
 君が・大きい (予定) 時に お爺さん 代わりに 君が・いる ので 動物  
 「君が大きくなったら爺ちゃんの代わりになって、動物  
エコイキ チェヘ エコイキ アハチ ウタハ ポロ イメヘ エコンテ クンペ。  
 e=koyki ceh e=koyki ahci utah poro imeh e=konte kunpe.  
 君が・獲る 魚 君が・獲る お婆さん 達 大きい 分配 君が・与える べきこと  
 も獲り、魚も獲って、婆ちゃん達にたんとおすそ分けしてあげるようにね」  
 【鶇・子守唄】
4. エアニ カ ナハアン ラム エコロ? クアニ カ ナハアン ラム クコロ。  
 eani ka nah an ramu e=koro? kuani ka nah an ramu ku=koro.  
 君 も このような心 君・持つ 私 も このような心 私・持つ  
 「君もこう思っていたのか。私もそう思っていたよ」【来】

## 「私が」「君が」の表現

(初級ステップ14参照)

アイヌ語の動詞は、人称によって形が変化します。人称を表す言葉は動詞に付属するものであり、人称接辞と呼ばれます。人称接辞には、主語を表すもの（主格人称接辞）と目的語を表すもの（目的格人称接辞）があります。このステップでは、「私が（1人称単数主格）」「君が（2人称単数主格）」の表現について説明します。

- (1)「私が…する」と表現する場合には、動詞の前に**ク ku**=「私が」をつけます（例文1, 2, 4）。
- (2)「君が…する」と表現する場合には、動詞の前に**エ e**=「君が」をつけます（例文2, 3, 4）。
- (3)アイヌ語では、文の中の全ての動詞に人称接辞がつきます（例文参照）。日本語の「私が（は）」「君が（は）」という言葉（例文4の**クアニ**と**エアニ**に相当）とは使い方が異なりますので、注意する必要があります。
- (4)動詞の前に**ク ku**=や**エ e**=がつくと、アクセントが移動する場合があります（アクセントの規則についてはステップ3を参照してください）。

**モコロ mokoro** 「～が眠る」 → **クモコロ ku=mokoro** 「私が眠る」

**ヌカラ nukara** 「～が～を見る」 → **エヌカラ e=nukara** 「あなたが～を見る」

## ステップ13 「私達が」 1人称複数主格

(例文)

1. ピリカ      ウレシケ      アンキー      クンペ。  
 pirika      ureske      an=kii      kunpe.  
 良い      暮らし      私達が・する      はずのこと  
 「私達は幸せになれるはずだ」【鶉・神謡】
2. アノカ   ヘマタ   チンケウヘ   アンコロ   ワ   シカカニヒ      ヘ?  
 anoka   hemata   cinkewhe   an=koro   wa   sikah\_ =anihi      he?  
 我々      何      親      私が・持つ      して      生まれること・私が      か  
 「我々はどのような親を持って生まれたものか？」【来・散】
3. ネー      タ      アハカシアン      テヘ      ワハカ      ター      クン      アイヌ      テモ  
 nee      ta      ahkas=an      teh      wahka      taa      kun      aynu      temo  
 どこ(か)に      歩く・私達が      して      水を汲む      べき      人      ても  
アンフナラ。  
 an=hunara.  
 私達が・探す  
 「何所かに行つて、水汲みを手伝わせる者でも探そう」【鶉・散】
4. アイユッポ      トゥラ      パイェアン      クス。  
 an\_ =yuhpo      tura      paye=an      kusu.  
 私の・兄      と一緒に      行く・私達が      つもりだ  
 「私の兄と一緒にいきます」【来】
5. タハ      アンキー      チキ      ピリカノ      ヌー      ヤヌワ。  
 tah      an=kii      ciki      pirikano      nuu      yan\_      wa.  
 これ      私が・する      したら      良く      聞く      なさい      よ  
 「これ(昔話)を私がしたら、良く聞きなさいよ」【来】

## 「私達が」の表現

(初級ステップ15, 20参照)

このステップでは、「私達が(1人称複数主格)」の表現について説明します。

- (1)他動詞を用いて「私達が…する」と表現する場合には、他動詞の前に**アン an**＝「私達が」をつけます。(例文1～3)。アンにアクセントが置かれ、動詞のアクセントは変化しません。
- (2)自動詞を用いて「私達が…する」と表現する場合には、自動詞の後に**アン =an**「私達が」をつけます(例文2,3)。アンにもアクセントが置かれます。

**ヌカラ nukara**「～が～を見る」→**アンヌカラ an=nukara**「私達が～を見る」  
**トゥフセ tuhse**「～が横になる」→**トゥフセアン tuhse=an**「私達が横になる」

- (3)単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アン =an** や**アン an=** は複数の形につきます(例文4)。  
 また、単語の末尾にある **h** (小さいハ行音) は、後ろに**アン =an** がつくことによって別の音に変化します(例文2)。

**クアー。ku=aa.**「私が座る」→ **ロカン。roh\_an.**「私達が座る」  
**クマカン。ku=makan.**「私が登る」→**マカパン。makah\_an.**「私達が登る」  
**クイタハ。ku=itah.**「私が話す」→**イタカン。itah\_an.**「私達が話す」

- (4)樺太方言では、**アン an=** / **アン =an** が「私(は、が、の)」の意味でも用いられます(例文5)。この場合、形の上では「私」と「私達」の区別がなくなり、どちらの意味で用いられているかは文脈によって判断されます(このような使い方は、特に年配の方によく見られる特殊な言葉づかいとする研究もあります)。また、動詞の語尾が複数を表す形に変化することがあり、自動詞の場合は「私達」の意味であることがはっきりわかります。

**アンコタン タ オカヤン。**「私は私の村に暮らしていた」  
**an=kotan ta okay=an.**

**オハ ミーナ アニ オカヤナハチ。**「私達はいつもただ笑って暮らした」  
**oha miina ani okay=anahci.**

※なお、北海道方言での「私達が」の表現には、聞き手を含む場合(包括的1人称複数主格、**an=** / **=an** で表す)と聞き手を含まない場合(除外的1人称複数主格、**ci=** / **=as** で表す)の二通りの表現があります。一方、樺太方言では、神謡と呼ばれる物語の中などで除外的1人称複数主格と同じ形の人称接辞が見られることがあり、接頭辞としての **ci** も見られますが、一般的に「除外/包括」の区別が見られません。

## ステップ14 「君達が」2人称複数主格

(例文)

1. エチラム クカラ テヘ エチアリキヒ。

eci=ramu ku=kara teh eci=arikihi.

君達の・心 私が・作る して 君達が・来る

「君達の心を私が操って、君達はここへ来た」【鶴・散】

2. ネーラアンペ エチヌカラ クス エチモコロホ？  
neera'anpe eci=nukara kusu eci=mokorocho?

何か 君達が・見る ために 君達が・寝ること

「君達は何かを見たために（嫌になって）寝ているのか？」【鶴・散】

3. ヘマタ エチヌー ルスイ？  
hemata eci=nuu rusuy?

何 君達が・聞く したい

「君達は何を聞きたい？」【来・散】

4. カムイ テムコロ ポーポホ エチアマ クニネ エチキー クンペ。  
kamuy temkoro poopoh eci=ama kunine eci=kii kunpe.

神 腕の内 ご馳走 君達が・置くように 君達が・する べきこと

「神々の御手（に）、君達にご馳走を捧げるようにするのだよ」

カムイ コトロ カシ イナウ エチアマ クニネ エチキー クンペ。  
kamuy kotoro kasi inaw eci=ama kunine eci=kii kunpe.

神 腕の内 イナウ 君達が・置くように 君達が・する べきこと

「神々の御胸（に）、君達がイナウを捧げるようにするのだよ」

【鶴・散】

5. マハテクフ エチネー クス シンマ ネ トウレヘ カラ ヤヌワ。  
mahtekuh eci=nee kusu simma ne tureh kara yan wa.

女性 君達が・である ので 明日 何か 木の实 摘む なさい よ

「君達は女性だから、明日なにか木の实を摘んできなさいな」

【鶴・散】

## 「君達が」の表現

(初級ステップ16参照)

このステップでは、「君達が(2人称複数主格)」の表現について説明します。

- (1)「君達が…する」と表現する場合には、動詞の前に**エチ eci**=「君達が」をつけます(例文1～4)。
- (2)単数・複数の区別がある自動詞の場合、**エチ eci**=は複数の形につきます(例文1)。
- (3)動詞の前に**エチ eci**=がつく場合、アクセントは移動しません。

**エアハカシ eahkas** 「～が～のために旅をする」

→ **エチエアハカシ eci=eahkas** 「君達が～のために旅をする」

## ステップ15 「私を」「君を」目的格人称

(例文)

- クチセ エネ エントウラ ヤン エンコンテ ヤン。  
 ku=cise ene en=tura yan en=konte yan.  
 私の・家 へ 私を・連れる なさい 私を・連れる なさい  
 「私の家へ連れて行ってください」【小・散】
- イスケヘチ コ イエヘチ ヤハカイキ アンオハウヘ オコレ ニヒチ。  
 i=sukehci ko i=ehci yahkayki, an=ohawhe okore nihci.  
 私達を・料理する たら 私達を・食べる ても 私達の・汁 全部 すする  
 「(人間は) 私達 (鮭) を料理して食べるにしても、私達の汁も (無駄にせず) 全部飲む」  
 【小・散】
- ヘンパラ オロ イワンテヘチ ネーノ イキヒチ。  
 hempara oro i=wantehci neeno ikihci.  
 いつ から 私を・知る ように する  
 「いつからか私を知っているかのように (厚かましく) 振舞う」【来・散】
- エトウラ クアニケ オイアン カムイ アンライキ。  
 e=tura ku=an iike oyan kamuy an=rayki.  
 君に・付いて 私が・いる して たくさんの クマ 私が・殺す  
 「君とともにいて、(君のために) たくさんのクマを私は仕留めてきた」  
 【鶉・散】
- オヤシ エチライキ テヘ エチエー。  
 oyasi eci=rayki teh eci=ee.  
 お化け 君達を・殺す して 君達を・食べる  
 「お化けが君達を殺して食べた」【小・散】
- エチタカハチ ヤハカ ハンカ パイエ ヤヌワ。  
 eci=takahci yahka hanka paye yan\_ wa.  
 君達を・招く しても 禁止 行く なさい よ  
 「君達、誘われても、決して行くなよ」【小・散】

## 「私を」「君を」などの表現

(初級ステップ17～19参照)

このステップでは、「私を (1人称単数目的格)」「君を (2人称単数目的格)」などの表現 (目的格人称接辞) について説明します。

- (1)「私を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エン en**＝「私を (に)」をつけます (例文1)。
- (2)「私達を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私達を (に)」をつけます (例文2)。なお、樺太方言では「私を (に)」の意味でも**イ i**が用いられます (例文3)。
- (4)「君を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「君を (に)」をつけます (例文4)。
- (5)「君達を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エチ eci**＝「君達を (に)」をつけます (例文5,6)。

## ステップ16 「私が君を」「君が私を」人称の組み合わせ

(例文)

1. タハ エチコンテ。  
 tah eci=konte.  
 これ 私が君に・与える  
 「これを君にあげる」【来】
  
2. クー クカラ チキ エチコンテアン。  
 kuu ku=kara ciki eci=konte=an.  
 弓 私が・作る したら 私が君達に・与える。  
 「弓を作ったら君達にやろう」【鶴・散】
  
3. アイイー ワ エチヌーレアン ナンコホ。  
 an=yee wa eci=nuure=an nankoh.  
 私が・言う して 私が君達に・聞かせる だろう  
 「私が言って、君達に聞かせましょう」【来】
  
4. イヌヌカレ！ アネルーラ！  
 inunukare! an=e=ruura!  
 かわいそうに！ 私達が君を・運ぶ  
 「かわいそうに！私達が君を（家へ）運んであげる！」【小・散】
  
5. エアニ ネアンペ オホカヨランポ エンコレ ナンコロ。  
 eani neanpe ohkayo rampo en=kore nankoro.  
 君 は 男の心 君が私に・与える だろう  
 「君は男の心を私にくれるだろう（私を愛してください）」【鶴・散】
  
6. イェトゥンネアン コ ヘマタ クス エヤイカテカラハ？  
 i=etunne=an ko hemata kusu e=yaykatekaraha?  
 君が私を・拒む たら どうして 君が・恋歌を歌うこと  
 「私を拒むというなら、どうして（私について）恋歌を歌っていたの？」

### 「私が君を」「君が私を」などの表現

「私が君を…する」「君が私を…する」などは、主格と目的格の人称接辞を組み合わせて表現します（主格目的格人称変化と呼ばれます）。主格と目的格の組み合わせは、方言による違いが大きく、詳細が不明な地域もあります。

以下の表は来知志方言の人称の組み合わせです。縦の列は主格の人称、横の列は目的格の人称を示しています。主格人称と目的格人称の単純な組み合わせからは予測できない不規則な形が用いられる場合がありますので、注意が必要です。（\*はそのような組み合わせがないことを示しています）

目的格 \ 主格	1 人称単数	1 人称複数	2 人称単数	2 人称複数	3 人称単数
1 人称単数	*	*	エチ eci=	エチ・・アン eci= =an	ク ku=
1 人称複数	*	*	アネ an=e=	エチ・・アン eci= =an	アン an=
2 人称単数	エン・ en=	イ・ i=	*	*	エ・ e=
2 人称複数	エチ・・アン eci= =an	イ・・アン i= =an エチイ eci=i=	*	*	エチ eci=
3 人称単数	エン・ en=	イ・ i=	エ・ e=	エチ・ eci=	

## 単語を覚えよう2 ～様子を表す言葉2～

- |     |                |                         |                          |
|-----|----------------|-------------------------|--------------------------|
| 1.  | パーセ            | paase                   | 「～が重い」                   |
| 2.  | コシネ            | kosne                   | 「～が軽い」                   |
| 3.  | オリー            | orii                    | 「～が高い」                   |
| 4.  | オラム<br>ネタパケハチコ | oram<br>netapake haciko | 「(丘や雲) が低い」<br>「(背) が低い」 |
| 5.  | イロンネ           | ironne                  | 「～が厚い」                   |
| 6.  | カパラ<br>カパンノ    | kapara<br>kapanno       | 「～が薄い、淡い」                |
| 7.  | セーセヘ           | seeseh                  | 「～が熱い」                   |
| 8.  | ナム             | nam                     | 「～が冷たい」                  |
| 9.  | ポホケノ           | pohkeno                 | 「～が暖かい」                  |
| 10. | メーライキ          | meerayki                | 「～が寒い」                   |

## さまざまなイロセ 2

塘路・釧路地方

◇塘路 山で大木があったときの祈り

シリコロ カムイ、ウェンメノコ チネヤッカイキ  
sirkorkamuy, wen menoko ci=ne yakkayki  
立木の神よ、不束な女ですけれど

タンパク アニ エチノミアンナ。  
tanpaku ani eci=nomi=an na.  
タバコによって貴方を祭りますよ。

イカシッカマワエンコレ。  
ikasikkama wa en=kore.  
見守ってください。

(語り手:伊藤つるさん・吉田はるさん)

☆この唱えごとを掲載するにあたり更科源蔵『コタン探訪帳』No. 10を参照しました。

◇釧路千代の浦 アイヌ語のよる手紙

カンピ アニ クソンコオマンテ ナ。 エコタン\*タ アイヌ オプッタノ  
kampi ani ku=sonkoomante na. e=kotan ta aynu oputtano  
紙によって言葉を送りますよ。 あなたの村では人々みな

ウイワンケレ ワ アンナ。 チコタン\* アナッネ アイヌ オプッタノ  
uywankere wa an a? ci=kotan anakne aynu oputtano  
互いに達者でいますか。 私の村では、人々みな

ウイワンケレ ワ オカイ エラムアン ワ イコレ。 エマチ ウサ  
uywankere wa okay kusu eramuan wa i=kore. e=maci usa  
互いに達者で暮らしていますから そう思って下さい。あなたの奥さんも

エポ ウサ イワンケ ワ アンナ。  
e=po usa iwanke wa an a?  
あなたのお子さんもお達者ですか。

(書き手:山本順吉さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

※コタヌ kotanu という場合もあります。沙流方言、十勝方言などでは、このような場合常にコタヌになります。

## ステップ17 尊敬の表現と不定人称

(例文)

1. アンウタリケ エチエカヌフ。  
 an=utarike eci=ekanh.  
 私の・身内 貴方を・迎える  
 「私の身内が貴方を出迎えます」【鶉・散】
2. エチオヤハケ タ オカヤニケ エチウェーペケレ パテへ アンヌー。  
 eci=oyahke ta okay=an iike eci=weepekere pateh an=nuu.  
 貴方の・他所 に いる・私が して 貴方の話 だけ 私が・聞く  
 「貴方とは離れた所に暮らしていて、ただ貴方の消息だけを聞いていた」  
 【鶉】
3. カムイ ルイ クス エチシヒヌ クス エチオカイ\*。  
 kamuy ruy kusu eci=sihnu kusu eci=okay.  
 神 力が強い ので 貴方が・生きる して 貴方が・いる  
 「神の力が偉大だったために、貴方は生きていらした」【鶉】
4. ポンノポンノ クィェー ワハカイキ カムイ エチネー クス エチワンテ クニ  
 ponno ponno ku=yee wahkayki kamuy eci=nee kusu eci=wante kuni  
 少し少し 私が・言う しても 神 貴方・あるので 貴方が・わかる ように  
 「(火の神よ) ごく短く申上げましても、貴方は神であられるので、  
 よくお分かりになれるよう」【来・祈り】
5. タン モシリ チエアシオホタ アン ヘンケ ウタハ アイイエーヘ ネアンペ  
 tan mosiri cieas oh ta an henke utah an\_=yeehe neanpe  
 この 世界 できた ときに いる お爺さん達 人が・言う事 は  
 「この世界ができた時にいたお爺さん達の呼び名は  
 アヌノカイペ ナハ アイイエー ヘンケ ウタハ ネー マヌ。  
 anunokaype nah an\_=yee henke utah nee manu.  
 アヌノカイペ と 人が・言う お爺さん 達 である という  
 アヌノカイペと呼ばれるお爺さん達だそうだ」【来・散】

## 尊敬の表現

アイヌ語では、人称接辞やある種の名詞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。このステップでは、主に人称接辞による尊敬の表現について説明します。

- (1) 2人称の複数を表わす**エチ eci**=「あなた達が、あなた達を」が聞き手に対する丁寧な表現を表わすことがあります(例文1～4)。
- (3) 単数と複数の区別のある動詞の場合には、複数形の動詞が用いられます(例文3)。
- (4) 「君達」をあらわす人称代名詞**エチオカ ecioka**が、「貴方」として、尊敬の表現で用いられることがあります。「貴方達」は**エチオカヤハチン eciokayahcin**で表されます。人称代名詞についてはステップ18で取り上げます。

## 不定人称

例文5や下の例の**アン an**=は、「私」や「私達」よりもっと広い意味で使われています。1人称複数の**アン an**=, **アン =an**, **イ i**=は、「一般に人が(を)、誰かが(を)」のような不特定の意味を表すことがあります。これを不定人称と呼びます。

**エネ アンカリ カ イサム。 ene an=kari ka isam.** 「どうにも仕様がなない。」

## ステップ18 「私」「君」人称代名詞

(例文)

- クアニ カ クエラムシンネ。 コヤイライケ エチエカラカラ。  
 kuani ka ku=eramusinne. koyayrayke eci=ekarakara.  
 私 も 私が・安心する ～に感謝する 私が君に・する  
 「私も安心したので、君に感謝している」【鶴・散】
- ター スマリ 「クアニ エントウラ」 ナハ イェー。  
 taa sumari “kuani en=tura” nah yee.  
 その キツネ 私 私を・連れる と 言う  
 「そのキツネは『私を連れて行ってくれ』と言った」【鶴・散】
- エアニ アイヌイタハ エワンテ ワ？  
 eani aynuitah e=wante wa?  
 君 アイヌ語 君が・わかる か  
 「君はアイヌ語がわかるか？」【来】
- エチオカ トウ アイヌ サパヌワ。  
 ecioka tu aynu sah\_ yan\_ wa.  
 君達 2 人 下りる なさい よ  
 「君達2人で下りなさい」【小・散】
- アノカ フシコ オロワ エネカ イワンテ ネーノ レーコホ イコヌプル。  
 anoka husko orowa eneka i=wante neeno reekoh i=konupuru.  
 私 以前 から 平素 私を・知る ように とても 私を・好く  
 「以前から平素、私を知っていたように、たいそう私を可愛がった」  
 【鶴・散】
- 「トゥーナハ カンネ エー カンネ」 ナハ イェー テハ アニヒ ナー イペ。\*  
 “tuunah kanne ee kanne” nah yee teh anihi naa ipe.  
 早く 食べる だよ と 言う して 彼 も 食事する  
 「『早く食べるんだよ』と言って、自分も食事した」【小・散】

## 人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「あなた」にあたるものです。ただし、アイヌ語は人称接辞を用いて人称の関係を表現しますので、人称代名詞は現れないこともあります。北海道方言では限られた場合にしか用いられませんが、樺太方言ではやや頻繁に用いられます。

北海道方言では人称代名詞を用いると、主語や目的語を強調する表現となり、樺太方言でも同様の効果が考えられますが、詳しいことはわかっていません。以下に来知志方言の人称代名詞のリストをあげておきます。

	単数	複数
1 人称	クアニ kuani (アノカ anoka)	アノカ anoka
2 人称	エアニ eani エチオカ ecioka (敬称)	エチオカ ecioka エチオカヤハチン eciokayahcin
3 人称	アニヒ anihi	

## ステップ19 動詞の単数・複数 1

(例文)

1. コタンコロニシパ ネアンペ ニー アータイ カシケ タ アー。  
 kotankoronispa neanpe nii aatay kaske ta aa.  
 村長 は 木 座る台 の上 に 座る  
 「村長は木製のイスの上に座った」【鶴・散】
2. トウイマコタン オルン ウタハ ロルンソー タ サパハチ マヌイケ ロカハチ。  
 tuyma kotan orun utah rorunsoo ta sapahci manuyke rokahci.  
 遠くの村 にいる 人々 上座 に 下る そうで 座る  
 「遠くの村の者達が上座に下りて座った」【鶴・散】
3. シネ チカハ タニ ヌマ テヘ オマン。  
 sine cihak tani numa teh oman.  
 1の 鳥 今 起つ して 行く  
 「今、1羽の鳥が飛んで行った」【鶴・散】
4. モソ パイキ ヤン ワ。  
 moso payki yan wa.  
 早く 起つ なさい よ  
 「(複数の人に) 早く起きなさいよ」【小】
5. アンコロナイ ナイコロカムイ オンネ マカン イナウ カ シンナイ アンホタリカ。  
 an=koro nay naykorokamuy onne makan inaw ka sinnay an=hotarika.  
 私の・持つ川 川の神 の所へ 上る イナウ も 別に 私が・を立てる  
 「私の川に宿る神に届くイナウも (他の神のものとは) 別に立てた」  
 【来・散】
6. タハニ ナンコロペ ナー カラ イケ ルウェサン チャー ペカ ロシキワ マカン。  
 tahni nankorope naa kara iike ruwesan caa peka rosiki wa makan.  
 シラカバ 魔除け像 も 作る して 坂 ロ 辺に 立てる して 上る  
 「シラカバ製の魔除け像も作り、坂の入りロー帯にたくさん立てて上った」  
 【来・散】

## 単数と複数で形が全く異なる動詞

(初級ステップ24, 25参照)

アイヌ語の動詞の一部には、単数と複数の区別をもつものがあります。単数・複数の区別をもつ動詞のなかには、単数形と複数形で全く形の異なるものがあります。このようなタイプの動詞は、数は少ないのですが基本的な動詞が多く、個々に記憶する必要があります。

以下に自動詞の例をあげます。自動詞は主語が複数である場合に複数形になります(例文1～5)。また、その後にさらに複数を表す接尾辞 *hci* がつくことがあります(例文2)。

- アー aa (単数) / ロホ roh (複数、ロカハチ rokahci) 「～が座る」
- アン an (単数) / オカイ okay (複数、オカヤハチ okayahci) 「～がある、いる」
- アシ as (単数) / 未見 (複数) 「(風、雨など) が立つ」
- エタラシ etaras (単数) / 未見 (複数) 「(人、動物) が立つ」
- ホタリ hotari (単数) / ロシキ roski (複数) 「(草木、家、崖など) が立つ」
- エヘ eh (単数) / アリキ ariki (複数) 「～が来る」
- オマン oman (単数) / パイエ paye (複数) 「～が行く」
- オマナン omanan (単数) / パヨカイ payokay (複数) 「～が歩き回る」
- ヌマ numa (単数) / パイキ payki (複数) 「～が起き上がる」

北海道方言では複数形がある動詞でも、カラフト方言では接尾辞のみで複数を表す場合があります。

- ホシピ hopisi (単数) / ホシピヒチ hosipihci (複数) 「～が戻る」
- 参考:北海道方言の(複数) hosippa

以下に他動詞の例をあげます。他動詞は基本的に目的語が複数である場合に複数形になります(例文6)。なお、自動詞と同様、複数形のかわりに接尾辞で複数を表す場合、複数形に更に複数接尾辞がつく場合があります。

- アシ asi (単数) / 未見 (複数) 「～が(戸など)を立てる」
- ホタリカ hotarika (単数) / ロシキ roski (複数、ロシキヒチ roskihci) 「～が(棒など)を立てる」
- ウフ uh (単数) / ウイナ uyna (複数、ウカハチ ukahci、ウイナハチ uynahci) 「～が～を取る」

## ステップ20 動詞の単数・複数2

### (例文)

1. シネ エホラハ チセ オホタ アフニヒ ネアンペ ポンテンネへポ  
 sine ehorah cise oh ta ahunihi neanpe pon tennehpo  
 1の 崩れる 家 の所に 入ること は 小さな赤ん坊

アンペネ チシ クス アン マヌ。  
 anpene cis kusu an manu.  
 本当に 泣く ている そうだ

「1軒の崩れた家に入って見ると、赤ん坊がひどく泣いていた。」【来・散】

2. ネア トー カーリ ワハカ オホタ アハパニヒ ネアンペ  
 nea too kaari wahka oh ta ahah\_anihi neanpe  
 その 湖 から 水 の所に 入ること・私が は

「その湖から水の中に私が飛び込んだところ、

トー トウンケ ポカ イラマシネ パイェアン。  
 too tunke poka iramasinne paye=an.  
 湖 の中 を通って 好ましい 行く・私が。

湖の中を、苦も無く歩いていくことが出来た」【来・散】

3. ウェンポロ チェポホントオソーコテワ ナイ カーリ サン マヌ。  
 wen poro cepohonto osookote wa nay kaari san manu.

ひどい 大きい 魚の束 ~を引きずるして 川 を通って下る そうだ  
 「(その女性)は)たいへん大きな魚の束を引きずって、川を  
 (上流から)下りてきたそう」【来・散】

4. シンケヘ スイ アハカポ テケ アンパ テヘ サパン。  
 sinkehe suy ahkapo teke anpa teh sah\_=an.

翌日 また 弟 の手 持つ して 下る・私達が  
 「次の日また弟の手をにぎって私達は浜へ出た」【鶴・散】

5. 「タニ ラン」ナハ イェーハウヘ アンヌー。セトゥルオロワ ラパン。  
 “tani ran” nah yee hawhe an=nuu. seturu orowa rah\_=an  
 今 降りると 言う の声 私が・聞く の背中 から 降りる・私が  
 「(オオカミが)「さあ降りろ」と言う声が聞こえたので、(オオカミの)  
 背中から降りた」【鶴・散】

### ン -n で単数形、小さいハ行音 -h で複数形がつくられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろにン -n をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろに小さいハ行音 -h をつけて複数形がつくられます。

このようなタイプの動詞は、基本的に移動の意味を表わす自動詞に限られています。以下に例をあげます。なお、複数形の動詞に、更に複数接尾辞がつくことがあります。

アフン ahu-n (単数) / アフフ ahu-h (複数、ahupahci) ※「～が入る」  
 ラン ra-n (単数) / ラハ ra-h (複数、rapahci) 「～が下る」  
 サン sa-n (単数) / サハ sa-h (複数、sawahci) 「～が(川下へ)下る」  
 リキン riki-n (単数) / リキヒ riki-h (複数、rikipahci) 「～が上る」  
 ヤン ya-n (単数) / ヤハ ya-h (複数、yapahci) 「～が上陸する」

※人称接辞アン =an や、複数接尾辞アハチ -ahci が付いた場合、しばしばアハパン ahap=an、アハパハチ ahapahci のように発音されます。

## ステップ21 動詞の単数・複数3

(例文)

1. タカハカ マハテクッ トー カシケ タ リキン マヌ。  
 takahka mahtekuh too kaske ta rikin manu.  
 カニ 女性 湖 の上 に 上る そうだ  
 「カニの女が湖面に上ってきた。」

ネー テヘ タマ リセ。  
 nee teh tama rise.  
 である して 玉 むしる  
 そして、(ふんどしに縫い付けた) ガラス玉をむしった」【鶉・散】
2. ネア モニマハポ テパハ オー タマハ リシパ クス カラ。  
 nea monimahpo tepaha oo tamaha rispa kusu kara.\*  
 その 女性 ふんどし 付いている 玉 むしる つもりである  
 「その女は、ふんどしに縫い付けてあるガラス玉をむしろうとした」  
 【小・散】
3. トゥーナシ イペ アンカラ マヌイケ トゥーナシ シネ ノタラハ アンルキ。  
 tuunas ipe an=kara manuyke tuunas sine notarah an=ruki.  
 早い 食事 私が・作る そうで 早い 1の 頬 私が・を飲み込む  
 「急いで食事を作り、急いでひと口飲み込んだ」【来・散】
4. タン ポロ コタン シヒテ カネ アン アイヌ カ エムイケ  
 tan poro kotan sihte kane an aynu ka emuyke  
 この 大きい 村 一杯 しつつ ある 人 も 全て  
 「この大きな村一杯に広がっていた人々も全て

ルッパ ケ トウイパ ワ イサム。  
 ruhpa ike tuytpa wa iam.  
 飲み込む して 途切れる して ない  
 飲み込まれて途絶えてしまったそうだ」【来・散】

## 母音で単数形、パ -pa で複数形がつくられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろに母音をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにパ -pa をつけて複数形がつくられます。

このタイプの動詞は他動詞に多くみられます。他動詞の例を以下にあげます。なお、他動詞は、基本的に目的語が複数である場合に複数形をとるのが一般的です（ステップ19参照）。

- アニ an-i（単数） / アンパ an-pa（複数）「～が～を持つ」
- カイエ kay-e（単数） / カイパ kay-pa（複数）「～が～を折る」
- コシウプ kosiwpu（単数） / コシユッパ kosi-yuh-pa（複数）「～が～を頑張る」
- ナサ nas-a（単数） / ナシパ nas-pa（複数）「～が～を割る」
- メス mes-u（単数） / メシパ mes-pa（複数）「～が～を剥がす」
- リセ ris-e（単数） / リシパ ris-pa（複数）「～が～をむしる」
- ルキ ruk-i（単数） / ルッパ ruh(k)-pa（複数）「～が～を飲み込む」
- レウエ rew-e（単数） / レウパ rew-pa（複数）「～が～を曲げる」

北海道方言では、以下のような自動詞もこの方法で複数形を作ります（十勝方言の例）。

- オプニ opun-i（単数） / オブンパ opun-pa（複数）「～が起きる」
- オシピ osip-i（単数） / オシッパ osip-pa（複数）「～が帰る」
- オユプ oyup-u（単数） / オユッパ oyup-pa（複数）「～が走る」

いっぽう、樺太方言では「起きる」の意味ではヌマ / パイキが、「走る」の意味では単数・複数の区別なくチャシ cas が使われます。また「帰る」については、ホシピのまま複数の意味でも使われるといったように、これらの自動詞については北海道方言のような単数・複数の対応が見られません。

ただし、南部で記録されたハウキ（英雄詩曲）である『北蝦夷古謡遺篇』にはホブンパが見られるため、地域や物語のタイプによっては、こうした自動詞の複数形が使われている可能性もあります。

## ステップ22 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

1. オホカヨ アフン。<sup>\*</sup>  
 ohkayo ahun.  
 男性 入る  
 「男性が入る」【来・散】
2. ポン モニマハポ オタカー タ サン テヘ ヘチレ。<sup>\*</sup>  
 pon monimahpo otakaa ta san teh hecire.  
 小さい 女の子 砂浜 に 下りる して 遊ぶ  
 「少女は砂浜に下りて遊んだ」【小・散】
3. ヘンケ プー オホタ リキン マヌイケ アマン シネ タワラ アンパ ラン。<sup>\*</sup>  
 henke puu oh ta rikin manuyke aman sine tawara anpa ran.  
 お爺さん 倉 所に 上る したそうで 穀物 1 俵 持つ 降りる  
 「お爺さんは倉に上って、米を1俵持って降りてきた」【来・散】
4. チュフチェヘ ウタハ サラクピヒチン アニ モニマハポ シタイキヒチ。  
 cuhceh utah sarakupihcin ani monimahpo siraykihci.  
 サケ 達 尾 用いて 女の子 ~を叩く  
 「サケ達は尾で女の子を叩いた」【小・散】
5. オンモ タニ アハカポ トー エーレ トー エーレ。  
 ommo tani ahkapo too eere too eere.  
 お母さん 今 男の子 乳を 飲ませる 乳を 飲ませる  
 「母親は、赤ちゃんに乳を飲ませ飲ませした」

### 自動詞（1項動詞）

これまでのステップでも、自動詞や他動詞という用語が出てきました。これらの動詞の違いは、いくつの名詞と結びつくかという点にあります。動詞が名詞と結びつくことを、「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語（動作の主体となるもの）になります。

オホカヨ アフン。ohkayo ahun. 「若者が入る」

この例のように、自動詞の前には空の箱が1つあって「 が入る」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように、自動詞は1つの名詞と結びつくことから、「1項動詞」と呼ばれることもあります。

### 他動詞（2項動詞）

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語（動作の対象となるもの）になります。

ヘンケ アマン アンパ。henke aman anpa. 「お爺さんが米を持つ」

この例のように、他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。他動詞は2つの名詞と結びつくことから、「2項動詞」と呼ばれることもあります。アイヌ語では、自動詞と他動詞の区別が厳密におこなわれます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった助詞が用いられますが、アイヌ語では用いられません。名詞は主語・目的語の順に並べられるのが一般的ですが、目的語・主語の順に並べられることもあります。

### 複他動詞（3項動詞）

他動詞のなかには、目的語にあたる名詞を2つ取る動詞があります。これを複他動詞（3項動詞）と呼びます。

オンモ アハカポ トー エーレ。ommo ahkapo too eree.  
「母親が子供にミルクを飲ませる」

## ステップ23 「たくさん」「少し」副詞

### (例文)

1. ヘロホキ ウタハ レーコホ レンカイネ エへ。  
 herohki utah reekoh renkayne eh.  
 ニシン 達 たいそう たくさん 来る  
 「ニシン達もたいそう大勢来た」【小・散】
2. ワハカ カ ポロンノ アン。  
 wahka ka poronno an.  
 水 も たくさん ある  
 「水も豊富にあった」【鶴・散】
3. オホタ レンカイネ アイヌ アン マヌ。  
 oh ta renkayne aynu an manu.  
 所に たくさん 人 いる そうだ  
 「そこに人がたくさんいたそうだ」【小・散】
4. シネ ポロ スマ プニ マヌ。 ポンノ プニ ヤハカ スイ ター タ オチウエ。  
 sine poro suma puni manu. ponno puni yahka suy taa ta ociwe.  
 1の 大きな石 上げる そうだ 少し 上げる ても また そこ に する  
 「(力比べをして、1人の男が) 大きな石を持ち上げた。少し持ち上げたが、またそこに放り出した」【鶴・散】
5. イソカムイカ アンカラ。クー アニ アンチヨホチャ、ヨーマハ アニ アンチウ ワ  
 isokamuy ka an=kara kuu ani an=cohca, yoomah ani an=ciw wa  
 クマ神 も 私が・作る 弓 以って 私が・射る 槍 以って 私が・突く して  
 「クマの神の模型も私は作り、弓で射たり、槍で突いて  
 ヤイトウラヘチリ アンキー マヌ。  
 yayturaheciri an=kii manu.  
 1人遊び 私が・する という  
 「一人で遊んでいた」【鶴・散】

## 副詞のはたらき

このステップでは主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

- (1) 副詞のなかには、動詞にノ **-no** という形をつけて規則的につくられるものがあります。  
 例：ポ**ン** pon 「～が小さい」 → ポ**ンノ** ponno 「少し」  
 ピリ**カ** pirika 「～が良い」 → ピリ**カノ** pirikano 「良く」  
 トウイ**マ** tuyma 「～が遠い」 → トウイ**マノ** tuymano 「遠く」
- (2) ポロ**ンノ** poronno は、動植物や物質、人など様々な名詞が多数・多量に存在することを表します。いずれの場合も、後ろにつづく動詞は単数形・複数形両方の例が見られます。
- (3) 「…しない」という否定の表現にはハン**ネヘカ** hannehka という副詞が、「けっして…するな」という禁止の表現にはハン**カ** hanka という副詞が用いられます（ステップ12を参照）。
- (4) 副詞のなかには、名詞の後に置かれて「～に、～で」のような格助詞にあたる意味を作るものがあります（例文5 ア**ニ** ani）。このような副詞は後置副詞と呼ばれます（ステップ33参照）。

## ステップ24 位置関係の表現 1

### (例文)

1. ウェンチョカヘカチ タニ コタンコロニシパ コホサーケ タ サン。\*

wencokahekaci tani kotankoronispa kohsaake ta san.

貧しい子供 今 村の首領 の前 に 出た

「貧しい子は今、村の首領の前に出て来た」【鶴・散】
2. アンコロ コタン ポロナイ エトコホ オンネ カーアマ クス マカパン。\*

an=koro kotan poronay etokoho onne ka'ama kusu makah =an.

私が・持つ 村 大きな川 の先 へ 罷かけする ために 上る・私が

「私の村の大川の水源へ、罷かけするために上って行った」【鶴・散】
3. タニ オケン カラ マヌイケ チセ オシマケ タ ホタリカ マヌ。

tani oken kara manuyke cise osmake ta hotarika manu.

今 魔除けの像 作る そうで 家 の後ろ に 立てる そうだ

「今、魔除けの像を作って、家の後ろに立てたそうだ」【来・散】
4. シネ ニシパ スイ チョホチャ。カシケ ポカ ハイタ。スイ シネ ニシパ

sine nispa suy cohca. kaske poka hayta. suy sine nispa

1の 首領 また 射る。 の上 に 外れる また 1の 首領

「1人の首領がまた射た。(矢は走っている熊の)上に反れた。また1人の首領が

チョホチャ。 オカケヘ アイ ハーチリ。

cohca. okakehe ay haaciri.

射る の後ろ 矢 落ちる

射た。(熊)の後ろ(に)矢が落ちた。」【鶴・散】
5. ネアン アイヌ ウタハエムイケ イサマハチ テヘ オカケ タ ター、オホタ ロカハチ

nean aynu utah emuyke isamahci teh okake ta taa, oh ta rokahci

その 人 達 全部 消える しての後 に その そこに 座る

「その者達が全て消えて、その後、そこに座っていた

ウシーケ オホタフシコ トンコリ トウフピシ ター タ ハーチリ テヘ アン マヌ。\*

usiike oh ta husko tonkori tuhpis taa ta haaciri teh an manu.

ところ に 古い 五弦琴 2つ そこに 落ちる してある という

所に、古い五弦琴が2台そこに落ちていたそうだ」【来・散】

## 位置関係を表す名詞

「前」「後」のような位置関係を表す名詞を位置名詞といいます。位置名詞には短形と長形と呼ばれる二種類の形があります。

以下に例をあげます。長形にはさらに2～3のバリエーションがあるため、それらの語尾を（ ）に入れて示します。

**エトホ etoh** (短形) / **エトコ (ホ) etoko (ho)** (長形)

「(移動しているものの) 前、(長さのあるものの) 先、(時間的な) 前」

**コホサー kohsaa** (短形) / **コホサーケ (へ) kohsaake(he)** (長形)

「(静止しているものの) 前、表側」

**オカ oka** (短形) / **オカケ (へ) okake (he)** (長形)

「(移動しているものの) 後、(時間的な) 後」

**オシマハ osmah** (短形) / **オシマケ (へ) osmake (he)** (長形)

「(静止しているものの) 後、裏手」

**オホ oh** (短形) / **オロ (ケ、－へ) oro (ke,-he)** (長形)

「場所」

一般に、短形は基準となる名詞との関係が密接な場合に使用されます。また、長形は基準となる名詞が省略されている場合などに使用されます。ただし、短形と長形の区別についてはまだ十分に明らかではない面もあります。

## 単語を覚えよう3 ～動作を表す言葉1～

- |     |              |                    |              |
|-----|--------------|--------------------|--------------|
| 1.  | シノホ<br>ヘチレ   | sinoh<br>hecire    | 「～が遊ぶ」       |
| 2.  | マー           | maa                | 「～が泳ぐ」       |
| 3.  | アハカシ         | ahkas              | 「～が歩く」       |
| 4.  | チャシ          | cas                | 「～が走る」       |
| 5.  | モコロ          | mokoro             | 「～が寝る」       |
| 6.  | モシ           | mos                | 「～が目覚ます」     |
| 7.  | チャハケ         | cahke              | 「～を開ける」      |
| 8.  | ヤイトンパ<br>ヤヤシ | yaytonpa<br>yayasi | 「～が閉まる」      |
| 9.  | アフン          | ahun               | 「(中に) 入る」    |
| 10. | アシン          | asin               | 「(家から外に) 出る」 |

## さまざまなイロセ3

静内・十勝地方

◇新年の祈り

**アシリパノミ アンキ シリ ネ ナ。**

asirpanomi an=ki siri ne na.

新年の祈りをいたしますよ

**ウロクテ カムイ ウタリ**

urokte kamuy utari

いらっしゃいます神々よ、

**アムキリワ ウンコレ キヤン！**

amkir wa un=kore ki yan!

ご承知ください。

**クコロ ウタリ ピリカ モンライケ キクニネ、**

ku=kor utari pirka monrayke ki kunine,

私の親族がつつがなく働けますように、

**セレマク ウシワ ウンコレ キヤン！**

sermak us wa un=kore ki yan!

お見守りください。

(語り手:葛野辰次郎さん)

☆この言葉を掲載するにあたり『平成 11 年度アイヌ語ラジオ講座テキスト』vol.4 を参照しました。

◇芽室太 船を下ろす時の歌

**アリ アン ペシタ メナスン テレケ**

ari an pe sta menas un terke

これこそまさに 東の踊り

**メナスン リムセ オカイ ペネネ**

menas un rimse okay pe ne ne.

東の舞 まことだぞ

**アンホーホイ ハホイ！**

an ho hoy ha hoy!

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第 8 号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009 年）を参照しました。

## ステップ25 位置関係の表現 2

(例文)

1. エンコホサーケ タ エトゥッカ トウフセ。\*  
en=kohsaake ta etuhka tuhse.  
私の・前 で カラス 飛び跳ねる  
「私の前でカラスが飛び跳ねた」【小・神】
2. イオカケ ワ アイヌ カヨー マヌ。  
i=okake wa aynu kayoo manu.  
私の・後 から 人 呼ぶ という  
「私の後から誰かが呼んだそうだ」【鶉・散】
3. エオナハ オカシイモカ ピリカ イモカ エオンネ アンパ ナンコホ。  
e=onaha okasi imoka pirika imoka e=onne anpa nankoh.  
君の・父 菓子 土産 よい 土産 君の・所へ 持つ だろう  
「君の父は、お菓子の土産、素敵な土産を君の所へ持ってくるだろう」  
【鶉・歌】
4. フレイタンキ トウフサンケ イケ、アニヒ シネへ シサン タ アマ。  
hure itanki tu h sanke ike anihi sine h sisan ta ama.  
赤い 椀 2つ 出す して 彼自身 1つ 自分のそばに 置く  
「(神翁は) 赤い椀を2つ出して、1つは自分のそばに置き、  
アノカ イサンケ タ シネへ アマ。  
anoka i=sanke ta sine h ama.  
私 私の・そばに 1つ 置く  
1つは私の側に置いた」【来・散】
5. エチオヤハケ タ オカヤン  
eci=oyahke ta okay=an.  
あなた達の・違うところ で いる・私が  
「私はあなた達とは違うところに暮らしている」【小】
6. ホスキ アンカラ イナウ マハ ワ ホタリ クス アン。  
hoski an=kara inaw mah wa hotari kusu an.  
先に 私が・作る イナウ 奥 の方に立つ している  
「以前に作ったイナウは奥の方に立っている」【鶉・散】

## 位置名詞の人称

このステップでは、人称接辞と位置名詞の組み合わせについて説明します。位置名詞の基準点を表す場合には、目的格人称接辞が用いられます。

- (1)「私の前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**エン en**＝「私を（に）」をつけます（例1）。
- (2)聞き手を含めて「私達の前」などと表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私達を（に）」をつけます（例文2,4）。
- (3)「あなたの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「あなたを（に）」をつけます（例文3）。
- (4)「あなた達の前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エチ eci**＝「あなた達を（に）」をつけます（例文5）。

※「私の手」・「私達の頭」という時は**ク ku**＝や**アン an**＝を用いますが、位置名詞の場合はこの点が異なることに注意して下さい。

「**クコホサーケ ku=kohsaake** 私の前」や「**アンオカケ an=okake** 私たちの後」という言い方はありません。

## ステップ26 場所の表現

(例文)

- ウサアンペ カ ソイ タ キヒチ コ アハト ラン。  
 usa an pe ka soy ta kihci ko ahto ran.  
 色々なこと も 外 で する と 雨 降る  
 「色々なことを外でしていると、雨が降る」【来・散】
- イタンキ パラサン カ タ アノマレ。  
 itanki parasan ka ta an=omare.  
 お椀 棚 の上 に 私が・入れる  
 「私は棚の上にお椀を入れた (しまつて片づけた)」【鶴・散】
- クチセ エネ エントウラ ヤン。 クオンモホホチン オンネ エントウラ ヤン。  
 ku=cise ene en=tuura yan. ku=ommohcin onne en=tura yan.  
 私の・家 へ 私を・連れる なさい 私の・母 所へ 私を・連れる なさい  
 「私の家へ連れて行ってください。私の母の所へ連れて行ってください」  
 【小・散】
- トゥイマ コタン オルン ウタハ シレパハチ マヌ。  
 tuyma kotan orun utah sirepahci manu.  
 遠い 村 にいる 人々 到着する そうだ  
 「遠くの村の住人が到着したそうさ」【来・散】
- ヘマタ オヤシ ヘー アイヌ ヘー ウタハ コタン オロ クサハチ。  
 hemata oyasi he aynu hee utah kotan oro kusahci.  
 何 化物 か 人間 か 達 村 の所 通る  
 「何か、化物だか人間だか、その連中が村々を通り過ぎる」【来・散】
- カミヒ アイスケ オトカ ナー アノロオー。 スー ナー アノロオー。  
 kamihi an=suke, otoka naa an=oro'oo. suu naa an=oro'oo.  
 その肉 私が・煮る 深盆 も 私が・そこに入れる 鍋 も 私が・そこに入れる  
 「私はその肉を煮て、深盆にも入れ、鍋にも入れた」【鶴・散】

## 場所の表現

「川へ行く」や「山にある」、「外で遊ぶ」といった「～へ」、「～に」、「～で」は、格助詞**エネ ene**や**タ ta**を使って表します。**エネ**は動作の向かう方向、**タ**は動作の起こる場所や移動の到達点を表します。

アイヌ語の格助詞は、位置名詞の後につけられます(例文1)。前後左右上下や、内・外、山手・浜手といった方位などはこの方法で表します。以下にいくつかの例を示します。

キムタ kim ta 「山で、山に」 キムマ kim\_wa 「山から」  
 オタカ タ otaka ta 「浜で、浜に」 オタカ エネ otaka ene 「浜へ」  
 ソイ タ soy ta 「外に」、オンナイケ タ onnayke ta 「内に」  
 トウンケ タ tunke ta 「○○中に」 ウトゥルケ タ uturuke ta 「間に」  
 エンカ タ enka ta 「上に」 エンポケエネ enpoke ene 「下へ」

「人」や「川」、例文2の「棚」などは普通名詞と呼ばれ、このような名詞の後ろには、格助詞を直接つけることはできません。そこで、普通名詞を用いて「～へ」、「～に」といった文を作る場合は**オンネ onne**「～の所へ」や**オホタ ohta**「～の所へ、に」を用います。

ナイ オホタ nay ohta 「沢の所に」 チヒ オホタ cih ohta 「船に」  
 クチャ オホタ kuca ohta 「狩小屋に」

または、位置名詞を用いて、普通名詞＋位置名詞＋格助詞のように表現することもあります(例文2, 3)。

ウンジ サンケ エネ unci sanke ene 「火のそばに」  
 ナイ チャーケ タ nay caake ta 「川の端(岸)に」

なお、**チセ cise**「家」、**コタン kotan**「村」、**モシリ mosiri**等のいくつかの名詞は、どちらの表現も使われます。

**チセ タ アン。 cise ta an. / チセ オホタ アン。 cise ohta an.** 「家にいる」

## 場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。その多くは対象が存在することを表す動詞です。例としては、**ウン un**「～が～にある、いる」、**ウシ us**「～が～に付く」、**オマ oma**「～が～に入る」、**オ o**「～が～に位置する、入る」などの動詞があります(例文4～6)。

## ステップ27 所有の表現 1

### (例文)

1. オヤシ セタハ ヘリコ チャルフ マサ テヘ アン。  
 oyasi setaha heriko caruhu masa teh an.  
 化物 の犬 上に の口 開く して いる  
 「化物の飼い犬は、上に向かって口を開いていた」【鶉・散】
2. ヘカチ セトゥル カシ アンタタタタ、コトロ カシ アンタタタタ。  
 hekaci seturu kasi an=tatatata, koto kasi an=tatatata.  
 子供 の背中 の上 私が・叩く の胸 の上 私が・叩く  
 「私は赤ん坊の背中や胸をトントン叩き、  
 チシ トゥラノ アンナンコタンパ。  
 cis turano an=nankotampa.  
 泣く と一緒に 私が・頬ずりする  
 泣きながら頬ずりした」【鶉・散】
3. エネトパケヘ ピリカ? エネトパケヘ セーセヘ ヘー?  
 e=netopakehe pirika? e=netopakehe seeseh he?  
 君の・体 良い 君の・体 熱い か  
 「君の体は調子が良いか。熱はあるか」【鶉】
4. パーポロ マハテクフ シネヘ ケモホ サンケ テヘ アトゥフ ピタタ。  
 paaporo mahtekuh sineh kemoh sanke teh atuhu pitata.  
 年配である 女性 1つ 針入れ 出す して の紐 ほどく  
 「そのお婆さんは、針入れを1つ出して、紐をほどいた」【鶉・散】
5. アンホクフ トゥラ オナハ チセヘ オンネ ウタサクス マカパン。  
 an=hokuhu tura onaha cisehe onne utasa kusu makah\_=an.  
 私の・夫 一緒に の父 の家 へ 遊ぶ ために 上る・私が  
 「私の夫とともに、彼の父の家へ遊びに行った」【鶉・散】

## 名詞の所属形と概念形

アイヌ語の名詞には概念形と所属形の二種類があります。概念形は一般的・抽象的な意味（例えば、一般的に **B** というもの）で用い、所属形は「**A** の **B**」（**A** さんが持っている **B** というもの、など）という所有の表現に用いられます。

- (1) 所有の表現は「人称接辞＋名詞所属形」（例文3,5）または「名詞＋名詞所属形」（例文1,2,4）のように言葉を並べます。
- (2) 所属形には短形と長形がみられ、母音で終わる名詞語幹の場合、所属形は次のようにつくられます。
- 短形: 概念形と同じ      長形: 概念形＋hV (V: 母音)

ラ ra、ル ru で終る名詞語幹の場合は、不規則な変化をし、揺れも見られます。

- 例) ウタラ utara → ウタリ、－ヒ utari,-hi 「～の仲間」  
 トウル turu → トウルフ turuhu / トウリヒ turihi 「～の垢」  
 オホチャラ ohcara → オホチャラハ ohcaraha / オホチャリヒ ohcarihi 「～の尾」  
 チャラ cara / チャル caru → チャラハ caraha / チャルフ caruhu 「～の口」  
 クル kuru → クルフ kuruhu / クリヒ kurihi 「～の影」

長母音イー ii、ウー uu で終る名詞語幹の場合には揺れがあり、概念形＋he と所属形接尾辞エ e＋hV の両方が見られます。

- 例) ニー、－へ／－イエ、－へ nii,-he / -yehe 「～の木」  
 クー、－へ／－ウエ、－へ kuu,-he / -wehe 「～の弓」  
 プー、－へ／－ウエ、－へ puu,-he / -wehe 「～の倉」

- (3) 子音で終わる名詞語幹の場合、所属形は次のようにつくられます。
- 短形: 概念形＋所属形接尾辞      長形: 概念形＋所属形接尾辞＋hV

- (4) 所属形接尾辞はイ i であることが多いですが、ア a、ウ u、エ e、オ o のこともあります（-hV の V は、最後の母音と同じ母音が現れます）。

ウ w、イ y で終わる名詞語幹の場合には揺れがあり、概念形＋he と所属形接尾辞エ e＋hV の両方が見られます。

- 例) カムイ、－へ／イエ、－へ kamuy,-he / yehe 「～の神」  
 アイ、－へ／イエ、－へ ay,-he / -yehe 「～の矢」  
 ハウ、－へ／－ウエ、－へ haw,-he / -wehe 「～の声」  
 オハウ、－へ／－ウエ、－へ ohaw,-he / wehe 「～の汁」  
 マウ、－へ／－ウエ、－へ maw,-he / -wehe 「～の風」

## ステップ28 所有の表現 2

(例文)

1. エカミヒ カ ナー ホノホノンケ。  
e=kamihī ka naa honohononke.  
君の・肉 も まだ 柔らかい  
「君の肉はまだ柔らかい (から美味しくくない)」【鶴・散】
2. ポロー エトーンカーリ サンケ マヌイケ ター キサルフ コトウイエ。  
poroo etooninkaari sanke manuyke taa kisaruhu kotuye.  
大きな 耳飾 出す そうで その の耳 に通す  
「提げ飾りのついた大きな耳飾を出して、耳に通した」【来・散】
3. アンコロ チプイヌピヒ アンサンケ イケ アンパイヌ テヘ  
an=koro cipuynupihī an=sanke ike an=puynu teh  
私・の 耳飾 私が・出す して 私が・通す して  
「私の耳飾を出して耳に通し、  
アントウマンテスカーニ アンサンケ イケ アネクッコロ。  
an=tumantesukaani an=sanke ike an=ekuhkoro.  
私の・装飾金具付き帯 私が・出す して 私が・帯を締める  
私の装飾金具付き帯を出して、それで帯を締めた」【来・散】
4. モニマハポ ナー ホロケウポ ナー ター セタハハチン カヨーカラハチ。  
monimahpo naa horokewpo naa taa setahahcin kayookarahci.  
女性 も 男性 も その 犬達 呼ぶ  
「その女の人も男の人も、その犬達を呼んだ」【小・散】

## 所有の表現

「A の B」という所有の表現には、以下の二通りのパターンがあります。

### (1)「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」

樺太方言は、身体部位、親族、器物、飼育動物、固有名詞など全ての名詞についてこの形で表すことができます（例文1～4）。

※北海道方言では、身体部位などのように、相手に譲り渡すことが不可能な名詞の場合にこの形が用いられます。

### (2)「人称接辞＋koro＋名詞所属形」または「名詞＋koro＋名詞所属形」

器物など相手に譲渡することが可能な名詞、および親族を表す名詞は、**コロkoro** または **コホkoh**「～が～を持つ」という動詞を用いた表現も使われます（例文3）。

### (3)樺太方言に特有の現象として、名詞所属形が複数形を取ることがあります（例文4）。これは以下のように作られます。

「名詞所属形＋hcin」

（例）

ポーホ pooho「～の子供」→ ポーホチン poohohcin「～の子供達」

サパハ sapaha「～の頭」→ サパハチン sapahahcin「～頭達」

コタヌフ kotanuhu「～の村」→ コタヌフチン kotanuhuhcin「～の村々」

なお、その名詞が複数であることを表すには**ウタハutah** / **ウタラutara**「～達」を名詞の後につける方法もあります。この場合、所属形は以下のように作られます。

「名詞概念形＋utarike,-he」

（例）

ミヒ mih（所属形ミチ、－ヒ mici,-hi）「孫」

→ミチヒチン micihiccin「～の孫達」

→ミトウタリケ、－ヘ mitutarike,-he「～の孫達」

ユフ yuh（所属形ユピ、－ヒ yupi,-hi）「兄」

→ユピヒチン yupihiccin「～の兄達」

→ユプタリケ、－ヘ yuputarike,-he「～の兄達」

## ステップ29 親族関係の表現

(例文)

1. タニ      アンヘンケ      アンペネ      イルシカ      マヌ。  
tani      an=henke      anpene      iruska      manu.  
今          私の・お爺さん      とても          怒る          そうだ  
「今、私のお爺さんは大変腹を立てた」【来・散】
  
2. アンコロ      ヘンケ      アンヌカラ      コ  
an=koro      henke      an=nukara      ko  
私が・持つ      お爺さん      私が・見る      と  
「私のお爺さんを見ると」【来・散】
  
3. ター      タ      アン      ペ      クユッポホ。  
taa      ta      an      pe      ku=yuhpoho.  
あそこ      に          いる          者          私の・兄  
「あそこにいるのが私の兄（です）」【来】
  
4. サーハ!      ハンカ      ミーナ!  
saaha!      hanka      miina!  
姉          禁止          笑う  
「姉さん！笑わないで！」【鵜・散】
  
5. アーチャポ      アーチャポ!      エカムイルシヒ      エチーレ      ナ!  
aacapo      aacapo!      e=kamuyrusihi      e=ciire      na!  
おじさん      おじさん      君の・アザラシ皮      君が・焼く      ぞ  
「おじさんおじさん！あなたのアザラシ皮を焦がすよ！」【小・散】
  
6. ネア コホ トウレンペヘ      カムイヘンケ      ネアンペ      チリキアング      ナハ      アイイエー。  
nea koh turenpehe kamuyhenke neanpe cirikianguh nah an\_=yee.  
その      持つ      守護神      神の翁      は      チリキアング      と      人が・言う  
「その（ヤイレスーポの）守護神である神の翁は、チキアングという」  
【来・散】

### 親族関係の表現

親族関係の表現には、「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」が用いられる場合があります（例文1,3）。

一方、「人称接辞＋koro＋名詞」または「名詞＋koro＋名詞」が用いられる場合もあります（例文2,6）。

親族関係の表現は方言差も大きく、使い方が不明な場合もあります。

### 呼びかけの表現

相手に呼びかける場合は、人称接辞が用いられない傾向がみられます（例文4,5）が、詳細は不明です。

## ステップ30 形式名詞

### (例文)

- チセ サマケ タ ポロ スマ アン ルーヘ アン。  
 cise samake ta poro suma an ruuhe an.  
 家 のそば に 大きい 石 ある 様子 ある  
 「家のそばに大きな石があったのだ」【鶴・散】
- セペワハカムイ チンキエトコ ペカリ シリ パンヌカラ オカ。  
 sepewahkamuy cinki etoko p ekari siri p an=nukara oka.  
 全能の神 の袖 先端 (虚辞)・翻る 様子 (虚辞)・私が・見る したい  
 「全能の神の裾先が翻るのを見たいものだ」【小・神】
- パー オマン トゥーナシ シリヒ。  
 paa oman tuunas sirihi.  
 年 が行く が早い 様子  
 「月日が経つのは早いものだ」【来】
- フシコ オホタ アン アンペ アイイエー チキ ヌー ヤン。  
 husko ohta an anpe an\_=yee ciki nuu yan.  
 古い 時に ある もの 私が・言う したら 聞く なさい  
 「昔あったことを私が言うから聞きなさい」【来】
- ポロ カムイ キー アンペ ネー クス、ポロ マチリ コロ アンペ。  
 poro kamuy kii anpe nee kusu, poro maciri koro anpe.  
 大きい クマ する こと だ から 大きい 傷 持つ こと  
 「大きなクマの仕業だから大怪我したんだ」【来】
- アンチンケウウタリヒチン ナハ イェヘチ、イヌーレヘチ ペ タハ ネー。  
 an=cinkewutarihcin nah yehci, i=nuurehci pe tah nee.  
 私の・両親たち と 言う、 私に・聞かせる こと こそ である  
 「私の両親がそう言って私に聞かせたのだ」

### 形式名詞の用法

例文の中のルーへ ruuhe, シリ siri, アンペ anpe は、いずれも日本語の「の」「こと」などにあたる意味をあらわす言葉です。これらの言葉は形式名詞（または名詞化辞）とよべれます。

- (1)ルーへ ruuhe は話し手が確信している事柄に用いられます（例文1）。
- (2)シリ siri は視覚によって認識される事柄に用いられます（例文2, 3）。
- (3)アンペ anpe は話し手が確信している事柄に用いられます（例文4, 5）。

### 形式名詞と動詞の組み合わせ

形式名詞はネー nee「～が～である」という動詞と組み合わせられて、日本語の「のだ」「ことだ」にあたる表現をつくります（例文6）。一方、形式名詞とアン an「～がある、いる」を組み合わせる表現もあります（例文1）。

\* 例文2の逐語訳にある「虚辞」とは、この場合、音として発語されたが特に意味のないものをあらわします。

## ステップ31 連体修飾表現

(例文)

1. イソカムイ オンネ マカン イナウ ター シンナイ アンホタリカ。  
 isokamuy onne makan inaw taa sinnay an=hotarika.  
 クマの神 の所へ 上る 木幣 その 別に 私が・立てる  
 「クマ神の元へ上る木幣は、また別に立てた」【鶴・散】
2. タン トー オイカーリンパチャシカムイ トー ノシケ タ アン。  
 tan too oykaarimpa cas kamuy too noske ta an.  
 この 湖 まわりを 走る クマ 湖 中央 に いる  
 「この湖の周りを走るクマが、湖の真中にいる」【鶴・散】
3. サシ ネーノ ホフト イミー ミー アイヌ。イチャイチャ イチャ！  
 sas neeno hohto imii mii aynu. ica ica ica!  
 昆布 のような 着物 を着る 人 汚い 汚い 汚い  
 「昆布みたいな（ボロボロの）着物を着た奴。汚い汚い汚い！」【鶴・散】
4. ネア アネソアヌ アン ポン トマ ソホカラ カ タ ホロケウポ ヤン。  
 nea an=esoanu an pon toma sohkara ka ta horokewpo yan.  
 その 私が・で席作る ある 小さい ゴザ 上 に 若者 上る  
 「その、それで座を作っていた小さなゴザの上に、若者が（水から）上ってきた」【来・散】
5. イナウ トウンケタ クレシケ マハポー アネコンテ クスイキ。  
 inaw tunke ta ku=reske mahpoo an=e=konte kusuiki.  
 木幣 の間 で 私が・育てる 娘 私が・君に・与える（予定）  
 「私が木幣の間で育てた娘を、君に与えよう」【鶴・散】
6. クンネ ネヤハカ チュフ ニケピヒ カ アハカリ ナンニケヘコロ マハテクフ。  
 kunne neyahka kuh nikepihi ka ahkari nannikeh koro mahtekuh.  
 夜 でも 太陽 の輝き も 以上に 顔の輝き 持つ 女性  
 「夜でも太陽の輝きにも増して顔の輝く美女」【鶴・散】

## 連体修飾表現

ある単語や句が名詞を修飾する構造を、連体修飾節といいます。

- (1) アイヌ語の連体修飾節は、日本語と同じように、修飾を受ける名詞の前に置かれます。
- (2) 修飾を受ける名詞には、本来の文の主語に相当するもの（例文1, 2, 5）、目的語に相当するもの（例文3, 4）、所有者に相当するもの（例文6）などの種類があります。

### ・ 本来の主語

イソカムイ オンネ マカン イナウ 「クマ神の元へ上る木幣」  
→ イナウ イソカムイ オンネ マカン。「イナウがクマ神の元へ上る」

### ・ 本来の目的語

イナウ トウンケ タ クレシケ マハポ 「私が木幣の間で育てた娘」  
→ イナウ トウンケ タ マハポ クレシケ。「木幣の間で娘を私は育てた」

### ・ 本来の所有者

クンネ ネヤハカ ナンニケヘ コロ マハテクッ 「夜でも顔の輝きを持つ美女」  
→ マハテクッ クンネ ネヤハカ ナンニケヘ コロ。「美女は夜も顔の輝きを持つ」

## ステップ32 「この」「その」「あの」連体詞

### (例文)

1. シネ エホラハ チセ オホタ ポンテンネへポ チシ クス アン。  
sine ehorah cise oh ta pontennehpo cis kusu an.  
1の 崩れる 家 の所で 赤ん坊 泣く ている  
「1軒の崩れた家の中で、赤ん坊が泣いていた」【来・散】
2. タン ヘカチ スイ ヌカラ クス アン。  
tan hekaci suy nukara kusu an.  
この 子供 また 見る ている  
「この子はまた見てる」【小】
3. タラ アイヌ アンコンテ クス。  
tara aynu an=konte kusu.  
あの 人 私が・与える (予定)  
「私はあの人にあげるつもりだ」【来】
4. ター コタン オホタ ニシパ チセ オシマケ タ ポロ チセ アンカラ。  
taa kotan oh ta nispa cise osmake ta poro cise an=kara.  
その 村 所に 首領 の家 の背後 に 大きい家 私が・作る  
「私はその村に、首領の家の背後に、大きな家を建てた」【鶴・散】
5. ネア アンコロ カムイヘンケ エイシタカンテ。  
nea an=koro kamuyhenke en=sitakante.  
その 私が・持つ 神翁 私に・自分を夢に見せる  
「その私の神翁が私の夢に現れた」【来・散】
6. ネアン オホカヨ ルーヘヘチン オカーカラ パイエアン。  
nean ohkayo ruuhehcin okaakara paye=an.  
その 男性 の足跡 を通って 行く・私が  
「私は、その男性の足跡をたどって行った」【鶴・散】

### 連体詞を用いた表現

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。

連体詞には数を表すもの（「1つの」「2つの」）や空間を指示するもの（「この」「あの」）、前に出てきた話題を指示するもの（「その」）などがあります。

- (1) 数を表す連体詞には、**シネ sine** 「1つの、1人の」、**トゥ tu** 「2つの、2人の」、**レ re** 「3つの、3人の」などがあります（例文1）。詳しくは初級ステップ22, 23を参照してください。
- (2) 空間を指示する連体詞には、次のものなどがあります（例文2～4）。

**タン tan**（複数形は**タノカ tanoka**）

「この（自分から近い位置にあるもの）」

**タラ tara**（複数形は**タラノカ taranoka**）

または**ター taa**

「あの（自分から遠い位置にあるもの）」

**タアン taan**（複数形は**タアノカ taanoka**）

「あちらの（自分からより遠い位置にあるもの）」

- (3) 前に出た話題を指示する連体詞には、**ネア nea**、**ネロホ neroh**、**ネアン nean**（複数形は**ネアノカイ neanokay**）「その」などがあります（例文5, 6）。

## 単語を覚えよう4 ～動作を表す言葉2～

- |     |           |              |             |
|-----|-----------|--------------|-------------|
| 1.  | コロ        | koro         | 「～が～を持つ、買う」 |
| 2.  | ヌカラ       | nukara       | 「～が～を見る」    |
| 3.  | ヌー        | nuu          | 「～が～を聞く」    |
| 4.  | エー        | ee           | 「～が～を食べる」   |
| 5.  | クー        | kuu          | 「～が～を飲む」    |
| 6.  | ミー        | mii          | 「～が～を着る」    |
| 7.  | フラハ ラハ    | huraha rah   | 「～が～を嗅ぐ」    |
| 8.  | トンパ<br>アシ | tonpa<br>asi | 「～が～を閉める」   |
| 9.  | オロオー      | orooo        | 「～が～の中に入れる」 |
| 10. | サンケ       | sanke        | 「～が～を出す」    |

## さまざまなイポロセ4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で） 沙流・千歳方言で作りました。

クは私の ku= エはあなたの e= eci（エチ）=あなたたち  
 ci=（チ）はてまえども =as（アシ）は自動詞に a= は一般に  
 =an（アン）は敬称も en=（エン） un=（ウン） e=（エ） eci=（エチ） i=（イ）

☆歌って人称接辞の役割を覚えてしまいましょう。（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1 人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2 人称単数主格	動詞について「君は、君が」名詞について「君たちの」
エチ	eci=	2 人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的 1 人称複数主格	他動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的 1 人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	不定人称主格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」
エン	en=	1 人称単数目的格	
ウン	un=	1 人称複数目的格	他動詞について「私に、私を」他動詞について「私たちに、私たちを」他動詞について「君に、君を」他動詞について「君たちに、君たちを」不定人称
エ	e=	2 人称単数目的格	
エチ	eci=	2 人称複数目的格	
イ	i=	不定人称目的格	目的格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたに、あなたを」

## ステップ33 「～へ」「～から」 格助詞

### (例文)

- ヤラ ケー ワ ハンカタ カラ テへ オホタ アナマ チキ ピリカ。  
 yara kee wa hankata kara teh oh ta an=ama ciki pirika  
 樹皮 削る して 曲げ物 作る して 中に 私が・入れる したら よい  
 「樹皮を剥がして曲げ物を作って、そこに(虫を)入れたら良いだろう」  
 【鶴・散】
- ヨーポニ シーサム イタハ アニ アイイエー。  
 yooponi siisam itah ani an\_=yee.  
 後から 日本 言葉 で 私が・言う  
 「後から日本語で言うよ」【来】
- シーサン トゥンケ タ オカヤハチ。  
 siisan tunke ta okayahci.  
 日本人 の間 に いる  
 「日本人の中で暮らしていた」【小】
- キナ ルー オカーカラ オマン アイネ ポン トーチャータ エヤイチウ。  
 kina ruu okaakara oman ayne pon too caa ta eyayciw.  
 草 道 を通って 行く うちに 小さい 湖 岸 に 突き当たる  
 「草むらの道を通って行くうちに、小さな湖の岸に行き着いた」【来・散】
- ナイ トントウイェ ニー ホラハテ、 リウカ カラ。  
 nay tontuye nii horahte riwka kara.  
 川 を横切って 木 を倒す 橋 を作る  
 「川を横切るように木を倒して、橋を架けた」【鶴・散】
- ウェン ヘカチ クー ヘケム イケ レ ルクム ネ カイ。  
 wen hekaci kuu hekem ike re rukum ne kay.  
 貧乏である 子供 弓 引く して 3の 断片 に 折れる  
 「貧しい子供が弓を引くと、3つに折れた」【鶴・散】

### 格助詞を用いた表現

日本語の「て、に、を、は」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を格助詞(後置詞)といいます。主な格助詞を以下にあげます。

タ	ta	～に、～で (場所・到着点)
エネ	ene	～へ (方向)
ポカ	poka	～で、～を 通って
ペカ	peka	～で、～を (広い場所)
ワ	wa	～から (起点)
ネ	ne	～として、～に

なお、格助詞に相当する役割をもつ言葉として、後置副詞 (ステップ23参照) があります。主な後置副詞を以下にあげます。

エペシ	epes	～に沿って
オカーカラ	okaakara	～を 通って (okaakari とも)
カーリ	kaari	～を 通って
オポニ	oponi	～の後から
トゥラ	tura	～と共に
トントウイエ	tontuye	～を 横切って
アニ	ani	～で、～を用いて (道具・手段)
ネーノ	neeno	～のように
アハカリ	ahkari	～以上に

## ステップ34 「～も」「～だけ」 副助詞

### (例文)

1. フシコ マチリヒ ネアンペ オハハ ナイ コホ ネ アン。  
 husko macirihi neanpe ohah nay koh ne an.  
 古い 傷 は 浅い 川 窪み として ある  
 「古い傷は（多少癒えて）浅い川の窪みのようになっている」【来・散】
2. テキヒ エネ チウ ヘンネヘ キー テヘ キンラ ナハ アンラム。  
 tekihi ene ciw hennneh kii teh kinnra nah an=ramu.  
 の手 へ 刺す でも する して 騒ぐ と 私が・思う  
 「手に刺しでもして騒いでいるものと思った」【来・散】
3. サケ クッチ イヨシキヒチ オホタ パテヘ シノホチャ。  
 sake kuhci iyoskihci oh ta pateh sinohca.  
 酒 飲む 酔う 所に だけ 歌う  
 「酒を飲んで酔ったときだけ歌う」【小】
4. シネ エチペヘ パハノ イコチャハセカ。  
 sine ecipeh pahno i=kocahseka.  
 1つの さじ まで 私に・押しずらす  
 「私に（料理を）さじ1杯ほど、すすめた」【鶏・散】
5. オヤウ ナー オトカ ナー ホニ オロワ プトゥプトウフワ アシン。  
 oyaw naa otoka naa honi orowa putuputih wa asin  
 ヘビ も 深鉢 も 腹 から ブツブツいう して 出る  
 「(化物の) 腹からヘビも深鉢もブツブツと音を立てて出て来た」【鶏・散】

副助詞を用いた表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。

主な副助詞としては以下のようなものがあります。

ネアンペ	neanpe	～は（主題）
ヘンネへ	henneh	～でも（例示）
カ	ka	～も（追加）
ナー	naa	～も（追加）
カンネ	kanne	～ほど（驚き、誇張）
パテへ	pateh	～ばかり（限定）
パハノ	pahno	～まで（限度）
タハ	tah	～こそ（強調）

## ステップ35 「…した」「これから…する」助動詞

(例文)

- シンカアン ヘマカ。  
sinka=an hemaka.  
疲れる・私が 終る  
「私は疲れてしまった」【来】
- 「キー」 ネー マヌ。  
“kii” nee manu.  
する である という  
「『やれ』だっけき」【来】
- ヌマ テヘ オロワ タニ オコイセ クス アシンナー キー クン  
numa teh orowa tani okoyse kusu asin naa kii kun  
起きる して から いま 小便する ために 出る も する ようと  
「起きてから、こんど小便をするために表に出でもしようと  
キー オホタ ネー ナンコホ。アトウイカ エネ インカラハ ネアンペ  
kii oh ta nee nankoh. atuy ka ene inkaraha neanpe  
する 時に である だろう 海 上 へ 目を向けることは  
「した時にであろう、海の上へ目を向けると…」【来・散】
- シーサン イタハ カ アネアイカハ ペ ネー ワハカイキ アイイエー  
siisan itah ka an=eaykah pe nee wahkayki an\_=yee  
日本 言葉 も 私が・できない もの である けれど 私が・言う  
エアシカイ パハノ アイイエー。  
easkay pahno an\_=yee.  
できる まで 私が・言う  
「私は日本語もできないけども、言えるところまでは言うよ」【来】
- ネー アイヌ イタハ カ アンヌー ルスイ。  
nee aynu itah ka an=nuu rusuy.\*  
何か アイヌ 言葉 も 私が・聞く したい  
「何かアイヌ語が聞きたい」

## 助動詞を用いた表現

「…したい」「…できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意思、能力などの意味を表す言葉を助動詞といいます。

主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

マヌ	manu	…という（伝聞）
ヘマカ	hemaka	…し終える
カンネ	kane	…するほど（程度）
エカスレ	ekasure	～しすぎる（複数形）
ナンコホ	nankoh	…するだろう（推量）※ナンコロ nankoro とも
ルスイ	rusuy	…したい（願望）
エアッカイ	easkay	…できる（能力によって）
エアイカハ	eaykah	…できない（能力によって）
コヤイコシ	koyaykus	…できない（事情によって）
エトウンネ	etunne	…するのを嫌がる
クス	kusu	…するつもりである（意思）
クン	kun	…するべきである

なお、**インカラ inkara**「目を向ける」、**ヌカラ nukara**「見る」、**コロ koro**「持つ、手に入れる」など rV で終る動詞に **rusuy** が接続した形では、**インカルスイ inkarusuy**「目を向けたい」、**ヌカルスイ nukarusuy**「見たい」、**コンルスイ konrusuy**「欲しい」などのように動詞の末尾が **n** に変化した形で固定しています。

また、1人称複数の人称接辞や、複数の接尾辞などがつく場合、**rusuy** よりも後につくことがあります。

（例）

シマコライェルスイアン。「私は（故郷を見てから）世を去りたい」  
simakorayerusuy=an.

ヤイオウシ ヌールスヤハチ。「自分の出自を聞きたい」  
yayousi nuurusuyahci.

また、名詞の後に**ライキ rayki**「殺す」という動詞を続けて、非常に強い願望を表すことがあります。

mokoro「眠り」 + rayki → mokonrayki「非常に眠い」  
wahka「水」 + rayki → wahkarayki「非常に水が飲みたい」  
okoyse「小便」 + rayki → okoyserayki「非常に小便がしたい」  
osoma「大便」 + rayki → osomarayki「非常に大便がしたい」

## ステップ36 「…して」「…しながら」 接続助詞 1

(例文)

1. モニマハポ チシ カンネ レンカ マヌ。  
 monimahpo cis kanne renka manu.  
 女の人 泣く ながら 承知する という  
 「女の子は泣きながら同意した」【鶉・散】
2. タニ シケ カラ ワ セー ワ サン。  
 tani sike kara wa see wa san.  
 今 荷物 作る して 背負う して 下る  
 「今、荷造りして背負って(山を)下りた」【鶉・散】
3. コタンコロニシパテヘシカハカハコロ テヘ ミーナ カンネ ヌカラ マヌ。  
 kotankoronispa tehsikahkah koro teh miina kanne nukara manu.  
 村の首領 手の日除け 持つ して 笑う ながら 見る という  
 「村の首領は、目上に手をかざして、微笑みながら見ていた」【鶉・散】
4. サパハチ ヤイネ タニ スマリ ポアハ ナハ オホケ マヌ。  
 sapahci yayne tani sumari poah nah ohke manu.  
 下りる うちに 今 狐 (擬音) と 放屁する という  
 「(川を) 下り続けるうちに、狐がポアハとおならをしたそうだ」【鶉・散】
5. チェヘ セー カンネ サイ ヤイネ チセ オンネ エハンケノ サン。  
 ceh see kanne san\_ yayne cise onne ehankeno san.  
 魚 背負う ながら 下る うちに 家 へ 近く 下る  
 「魚を背負いながら下るうちに、家の近くまで下りた」【鶉・散】
6. ウランコユッパ ハウオロ アナイネ ルウェサン オカーカラ マカン。\*  
 urankoyuhpa haworo an ayne ruwesan okaakara makan.  
 励ましあう 声 ある うちに 坂 を通る 上る  
 「掛け声が聞こえているうちに、坂を通って上ってきた」【鶉・散】

### 接続助詞を用いた表現 1

接続助詞とは、日本語の「…しながら」「…して」のように、文として成り立つ構造のものをひとつの文につなげる働きをもつ助詞です。接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「～しながら…する」など）を表すものや、論理的な関係（「…したので…する」など）を表すものなどがあります。

このステップでは、主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

- (1) 時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「…して…する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「…しながら…する」）にあるのかによって表現が区別されます。
- (2) 「…して…する」のような時間的な前後関係を表す場合には、**ワ wa** 「…して」や**テへ teh** 「…して」、**イケ ike** 「…して」などが使われます。また、「…し続けてその結果」のような意味を表す場合には、**ヤイネ yayne** または**アイネ ayne** が用いられます（例文4, 5, 6）。
- (3) 「…しながら…する」のような同時的な関係を表す場合は、**カンネ kanne** 「…しながら」が用いられます（例文1, 3, 5）。ンが短く発音されて**カネ kane** のように聞こえることもあります。

## ステップ37 「…なので」「…すると」 接続助詞 2

### (例文)

- チシ クス アニヒ クス ネア ポンテンネへポ ウッ ワ フンケ マヌ。  
 cis kusu anihi kusu nea pontennehpo uh wa hunke manu.  
 泣く ながら いることのために その 赤ん坊 取る して あやす という  
 「赤ん坊が泣いていたので、拾い上げてあやしたそうさ」【来・散】
- タン チャシカムイ ネーラアナハカ アイウシククニネ キー ヤン。  
 tan cas kamuy neera an\_yahka ay us kunine kii yan.  
 この 走る クマ どうある ても 矢 付くように する なさい。  
 「何とぞ、この走っているクマに矢が刺さるようにしてください」  
 【鶴・散】
- ナハ イェー チキ 「んー」 ナハ ヘンネへ キー ヤン カンネ。  
 nah yee ciki “mm” nah hennéh kii yan kanne.  
 と 言う なら 合の手 と ても する なさい な  
 「(昔話を語り始めて) …と言ったら、『んー』でも『ヨーレパシ』でも  
 「ヨーレパシ」ヘンネへ キー ヤン カンネ。エチチャラコロ チキ。  
 “yoorepasi” hennéh kii yan kanne. eci=carakoro ciki.  
 合の手 ても する なさい な 君達が・口持つ なら  
 言いなさいな。あんたたち口持ってんだったら」【来】
- トゥーナハカンネ ホシピアン アナハ ピリカ ナハ アンラム。  
 tuunah kanne hosipi=an anah pirika nah an=ramu.  
 早く (強調) 帰る・私が たら 良い と 私が・思う  
 「早く帰れば大丈夫だと思った」【来・散】
- アンヌカラ コ カムイ ホイヌカー オホタ エオ カネ オカイヤハカ、  
 an=nukara ko kamuy hoynukaa oh ta eo kane okay yahka,  
 私が・見る と 動物 紹わな の所に かかる ながら いる ても  
 「見ると、貂が貂わなにかかっているといっても (1頭、2頭でなく)、  
 トウ クンクトウ ホイヌカー オホタ ウッ マヌ。  
 tu kunkutu hoynukaa oh ta uh manu.  
 2の 10 紹わな の所で 獲る という  
 20頭を貂わなで獲った」【鶴・散】

## 接続助詞を用いた表現 2

このステップでは、主に「…するので（原因・理由）」、「…するために（目的）」、「…すると（条件）」、「…しても（譲歩）」、「…したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1)原因・理由の表現には**クス kusu**「…するので」という接続助詞が用いられます。目的の表現には**クニ kuni**、**クニネ kunine**「…するために」のほか、**クス kusu**「…するために」などが用いられます（例文1, 2）。
- (2)条件の表現には**チキ ciki**、**アナハ anah**「…したら、…すると」などが用いられます（例文3, 4）。後に命令文が続くときには **ciki** が使われることが多いようです（例文3）。また、「…したところ」のような意味を表す場合には**コ ko**などが用いられます（例文5）。
- (3)譲歩の表現には**ヤハカ yahka**「…しても」、**ワハカイキ wahkayki**などが用いられます（例文5）。また、逆接の表現には**コロカ koroka**「…するけれども」が用いられます。

## ステップ38 「…するように」 接続助詞3

(例文)

1. アイシケ オペヘテヘ パハノ アイエアハヤイネ タニ アトゥイ サハテヘ。  
 ay sike opehteh pahno ay eah yayne tani atuy sahteh.  
 矢 荷物 尽きる ほど 矢 射る うちに 今 海 乾く  
 「(沖に向かって) 背負っていった矢が尽きるほど射続けるうちに、  
 今や海が干上がった」【鶴・散】
  
2. タラ アイヌ オマン クニーネ アン。  
 tara aynu oman kuniine an.  
 あの 人 行く ように ある  
 「あの人が行くようである」【来】
  
3. アイイエーヘ ネーノ ハンカ オイラ カンネ キー。<sup>\*</sup>  
 an\_yeehe neeno hanka oyra kanne kii.  
 私が・言うこと のように (禁止) 忘れる で する  
 「私が言うように、忘れずにしなさい」【来・散】
  
4. ヤイソピカンテ カンネ モコロ ヤン。  
 yaysopikante kanne mokoro yan  
 注意する で 眠る (複数命令)  
 「警戒しながら眠れ」【鶴・散】
  
5. ラムピリカ アニ ヌー ヤン テヘ イコンテ ヤン ワ。  
 ramupirika ani nuu yan teh i=konte yan wa.  
 心穏やかである で 聞く なさい して 私に・くれる (複数命令) よ  
 「穏やかな心で聞いてください」【小・祈】

### 接続助詞を用いた表現3

このステップでは、主に「…するほどに（程度）」、「…するように（推定）」、「…しないで（否定）」、「…する様子で（状態）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1) 程度の表現には**パハノ pahno**「…するまで」という接続助詞が用いられます(例文1)。
- (2) 推定の表現には**クニーネ kuniine**「…するように」などが用いられます(例文2)。
- (3) 否定や禁止、状態の表現には**カンネ kanne** または **アニ ani** 「…して」が用いられます(例文3, 4, 5)。

・ **イルシカ アニ アパ チャハケ**。「腹を立てて（乱暴に）戸を開けた」  
iruska ani apa cahke.

・ **ミーナ アニ オカヤナハチ**。「笑いながら暮らした」  
miina ani okay=anahci.

・ **エチエコタンアハカラ アニ エチアハカシ**。「それでお前達は村を荒らしながら歩き回った」  
eci=ekotanahkara ani eci=ahkas.

## ステップ39 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1

(例文)

- クノーセタ エメヘ クス アン。ヘマタ アイヌカ エキヒ ネーヘ。  
 ku=nooseta emeh kusu an. hemata aynu ka ekihi neehe.  
 私の・猟犬 吠える しつつある 何 ひと か 来ることであること  
 「私の猟犬が吠えている。誰か来たのであろうか」【鶉・散】
- オトゥパー オレ パー カス ワ アン アイネ  
 otu paa ore paa kasu wa an ayne  
 2の 年 3の 年 を越す して いる うちに  
 「2年3年と過ごしているうちに」【来・散】
- オヤンルルコタンタ、ヤイレスーポ ヤイチセコロ テヘ アン マヌ。  
 oyanrurukotan ta, yayresuupo yaycisekoro teh an manu.  
 オヤンルル村 に ヤイレスーポ 自分の家を持つ して いる という  
 「オヤンルルの村に、ヤイレスーポが居を構えていたそうだ」【来・散】
- オヤウ アンラム ペ アンヌカラ コ、リテンチェヘスケ テヘ アン。  
 oyaw an=ramu pe an=nukara ko, ritenceh suke teh an.  
 ヘビ 私が・思う もの私が・見る と ギンポ魚 料理する て ある  
 「へびだと思っていた料理を見ると、ギンポ魚が料理してあった」  
 【鶉・散】
- オロワ マハテクフ ケム トウムタ アイ ヤイネ ヤイヌパ コ  
 orowa mahtekuh kem tum ta an\_ yayne yaynupa ko  
 それから 女性 血 の中 に いる うちに 気がつく と  
 「それから、女が血の海にいて、やがて我に返ると、  
 ケム ルシ ミー テヘ アンクス アン。  
 kem rus mii teh an kusu an.  
 血 衣 着る して いる しつつ いる  
 血まみれの着物を着ていたのだった」【鶉・散】

### 接続助詞と補助動詞を用いた表現 1

接続助詞（ステップ36参照）と、**アン an**（複数形**オカイ okay**）「～がある、いる」などの動詞（補助動詞）が組み合わせられ、「…している」「…しつつある」などの意味が表されることがあります。なお、これらの表現においては、補助動詞にも人称接辞がつけられます。

（例）

ヘラリアン テヘ オカヤン。 「私はうつむいていた。」【鵜・散】  
herari=an teh okay=an.

- (1) 動作や変化の進行を表す表現には、**クス アン kusu an**（複数形**クス オカイ kusu okay**）「…しつつある」が用いられます（例文1）。
- (2) 動作や変化の結果の状態を表す表現としては**テヘ アン teh an**（複数形**テヘ オカイ teh okay**）「…している、…してある」が用いられ、まれに**ワ アン wa an**（複数形**ワ wa okay**）「…している、…してある」が用いられます（例文2, 3）。
- (3) また、しばしばこれらの**テヘ**や**ワ**や**クス**が省略されることがあります。

（例）

アンキヤンネユピ テパハ、キヤンネ マハテクッ オマイ エンカシケ  
タ ラハキクスアン。  
an=kiyanne yupi tepaha, kiyanne mahtekuh omay enkasike ta rahki kusu an.  
「上の兄の禪は、年長の女の寢床の上にかけてあった。」

ポニウネ マハテクッ オマイヘ ワ、アニヒ テパハ ラハキアン。  
poniwne mahtekuh omayhe wa, anihit tepaha rahki an.  
「年下の娘の寢床から、彼の禪がかけてあった。」【鵜・散】

## ステップ40 接続助詞と動詞を組み合わせた表現2

(例文)

1. エアニ ニー ヘケンパ ワ ヌカラ。 ヘチレ ワ ヌカラ。  
 eani nii hekempa wa nukara. hecire wa nukara.  
 君 木 引っ張る して 見る 遊ぶ して 見る  
 「お前も木を引っ張ってみろ。試してみろ」【鶴・散】
2. カマ オンネ タカハカ アマ テヘ オイスフタ ヌイナ テヘ アマ。  
 kama onne takahka ama teh oysuh ta nuyna teh ama.  
 釜 中へ カニ 置く して 隅 にかくす して 置く  
 「釜の中へカニを隠して、部屋の隅に隠しておいた」【鶴・散】
3. チヒ オホチ テヘ レパハチ ター ホシピヒチ ワ イサン マヌ。  
 cih ohci teh repahci taa hosipihci wa isan manu.  
 舟 乗る して 沖へでる その 帰る して いない という  
 「(化物達は)舟に乗って沖へ出て、そうして帰ってしまったそうだ」  
 【来・散】
4. コタンコロニシパ ヨイキリヒ ノシケケヘ イコウサライエ ワ イコンテ。  
 kotankoronispa yoykirihi noskekehe i=kousaraye wa i=konte.  
 村の首領 宝壇 半分 私に・分ける して 私に・与える  
 「村の首領は、彼の宝の半分を私に分けてくれた」【鶴・散】

## 接続助詞と補助動詞を用いた表現 2

前のステップで取り上げた接続助詞と補助動詞の組み合わせには、他にも様々なものがあります。

- (1)「…してみる」という表現には、**ワ ヌカラ wa nukara**「…してみる」が用いられます。(例文1)  
「見てみる、作ってみる」などの実例がありますが、そのほかの「触ってみる、聞いてみる、味わってみる」などは例がありません。北海道の方言では、後者の場合には**ワ イヌ wa inu**を使います。
- (2)「…しておく」という表現には**ワ アマ wa ama**が用いられます(例文2)。
- (3)「…してしまう」という表現には**ワ イサン wa isam**が用いられます(例文3)。
- (4)「…してくれる」という表現には**ワ コンテ wa konte**が用いられます(例文4)

## 単語を覚えよう5 ～程度を表す言葉～

- |     |                  |                           |              |
|-----|------------------|---------------------------|--------------|
| 1.  | レンネノ             | rennenno                  | 「静かに」        |
| 2.  | ユッケノ             | yuhkeno                   | 「激しく」        |
| 3.  | トゥナハ             | tunah                     | 「素早い、急ぐ、慌てる」 |
| 4.  | ランネノ             | ranneno                   | 「ゆっくりと」      |
| 5.  | ピリカノ<br>ピリカハノ    | pirikano<br>pirikahno     | 「良く、きちんと」    |
| 6.  | イエールイェ           | yeeruye                   | 「最も」         |
| 7.  | ニーサハノ            | niisahno                  | 「急に、突然」      |
| 8.  | ソンノ              | sonno                     | 「本当に、実に、非常に」 |
| 9.  | ラムレンカイネ<br>ヤイラマニ | ramurenkayne<br>yayramani | 「意志によって、勝手に」 |
| 10. | シウプカンネ           | siwpu kanne               | 「一生懸命に」      |

## さまざまなイロセ5

十勝地方

◇芽室太のタッカラ「踏み舞」

タネアナッネ ラカ イサム オンネ ヲ クネ クス シンシ  
tane anak raka isam onne p ku=ne kusu nnn

今や何の甲斐もない年寄りとなりましたので

シクア アイヌ ウタリ オッカイ シクア ウタラ  
sikap aynu utari okkay sikap utar

若い者たち 若い男たち

シクア メノコ ウタラ エカッタラ コクシシノポ  
sikap menoko utar ekattar kokusisno po

若い女たち 子供たちとともに

イワンケノポ ウオオンフウォ!  
iwankeno po uoo nn huo!

達者で(暮らしすように)

クオンカミ ハウ エシタパン ナ。  
ku=onkami haw estap an na.

私は拝礼するのです。

(語り手:高橋勝次郎さん)

☆語り手の高橋さんが、芽室太出身の小川エタイェクルというエカシのタッカラを思い出して演じたものです。高橋さんがふだん演じていたタッカラとは節が違いますが言葉運びは似ています。

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会(「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009年)を参照しました。

## ステップ41 「…だよ」「…ですか」終助詞

### (例文)

1. ヌプル チェートウイタハペ エヘ ワ! ウォー ウォー ウォー!  
nupuru ceetuytahpe eh wa! wo wo wo!  
霊力の強い 名高い者 来る よ イヌの吠え声  
「霊力の強い名高い者が来たよ！ウォーウォーウォー！」【鵜・散】
2. エオマン ヤハカ ピリカ ワ。  
e=oman yahka pirika wa.  
君が・行く ても 良い よ  
「行っても良いよ」【鵜・散】
3. ヘタハ エー。イペ ワ。 トゥーナハ カンネ イペ カンネ。  
hetah ee. ipe wa. tuunah kanne ipe kanne.  
さあ 食べる 食事するよ 早く (強調) 食事する なさい  
「さあ食べて。ご飯食べて。早くご飯食べなさい」【来・散】
4. ケヘ パイェアン ロホ。\*  
keh paye=an roh.  
さあ 行く・私達が しよう  
「さあ、行こう」
5. エマー エエアッカイ ワ?  
e=maa e=easkay wa?  
君が・泳ぐ 君が・できる か  
「君は泳げるか？」【来】

## 終助詞を用いた表現

文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表す言葉を終助詞とといいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	…（する）ぞ（聞き手への促し）
ワ	wa	…（する）よ（説明・応答）
カンネ	kanne	…しなさいね（言い聞かせ・念押し）
ヤン	yan	…しなさい（複数・丁寧な命令）
ロホ	roh	…しよう（勧誘）
ソホ	soh	…しよう（勧誘）
ヤ	ya	…（する）か（疑問）
ワ	wa	…（する）か（疑問）
ヘ	he	…か（疑問）

ヤン yan 「…しなさい」は複数形の動詞とともに使われ、2人以上の相手への命令、または丁寧な命令を表します（例：アリキ ヤン ariki yan 「来なさい」）。

勧誘表現は動詞に1人称複数の人称接辞をつけて表されます。ロホ roh はその文の後に付け、勧誘であることを明確にすると考えられます。ソホ soh を用いた場合は、動詞にロホ roh のような1人称複数の人称接辞は、つけません。

（例）

ヘチレアナハチ。 hecire=anahci. 「踊りましょう。」  
 ヘチレアンロホ。 hecire=an roh. 「踊りましょう。」  
 ヘチレソホ。 hecire soh. 「踊りましょう。」

これらの終助詞が2つ組み合わされることもあります。

（例）

ヌプル チェートウイタハペ エヘ ワ ナ！ウォーウォーウォー！  
 nupuru ceetuytahpe eh wa na! wo wo wo!  
 「霊力の強い名高い者が来たぞよ！ウォーウォーウォー！」

ハンカ エトゥンネ ヤン カンネ。

hanka etunne yan kanne.  
 「嫌がらないで下さいね」

## ステップ42 形式名詞による文末表現 1

### (例文)

- ヤイエコタ コタヌフ エカームスカラ ペ タハ ネー マヌ。  
 yayekota kotanuhu ekaamesukara pe tah nee manu.  
 自分で の村 救う ものこそ である という  
 「(ヤイレスーポが) その村を自ら救ったものなのだ」【来・散】
- タハ パテヘ エネーレヘチ ペ ネー コ。  
 tah pateh en=eerehci pe nee ko.  
 これ だけ 私に・食べさせる もの である よ  
 「これだけを私に食べさせたのだよ」【小・散】
- ネーラアンペ カ イサム ルーヘ アン。  
 neeraanpe ka isam ruuhe an.  
 いかなる物 も ない 様子 ある  
 「何もないよ」【鶉・散】
- ポロ チヒ ケムララ シコノイエ ネーノ ヤン シリヒ アン。  
 poro cih kem urara sikonoye neeno yan sirihi an.  
 大きい 舟 血 霧 巻き起こす ように 上る 様子 ある  
 「大きな舟が、血の霧を巻き起こすようにして上陸してきているのだ」  
 【来・散】

### 形式名詞を用いた文末表現 1

形式名詞（ステップ30参照）は様々な動詞や副助詞、終助詞などとともに、文末表現をつくります。

- (1)聞き手に事情を説明する場合には、「形式名詞+**アン an**」または「形式名詞+**ネー nee**」という表現が用いられることがあります（例文1～4）。
- (2)**ネー nee**の後に**コ ko**をつけると、より強く言い切る形になります（例文2）。

## ステップ43 疑問の文末表現

(例文)

1. ケット アシン コホ エオソマハ?  
 kestoo asin koh e=osomaha?  
 毎日 出る と 君が・排便すること  
 「便は毎日出ていますか？」【鵜・散】
  
2. トーノシキ パハノ エチモコロ ヘ ヤ?  
 toonoski pahno eci=mokoro he ya?  
 昼間 まで 君達が・眠る (疑問) か  
 「昼まで寝ているのか？」【小】
  
3. ナケネ エオマン クス ヘタ ネ ヤ?  
 nakene e=oman kusu heta nee ya?  
 どこへ 君が・行く (予定)こそ である か  
 「君はどこへ行くつもりだ？」【小・散】
  
4. ヘマタ ネ カラ ハク ヘタ ネ ヤ?  
 hamata ne kara haku heta nee ya?  
 何 として 作る 箱こそ である か  
 「何のために作った箱だ？」【小・散】
  
5. ヘマタ アイヌ ワンテ クス ネアン、エチエコウエーペケレ イケ  
 hemata aynu wante kusu nean, eci=ekoweepekere ike  
 何 人 わかる ので その 君達に・それを語る して  
 「いったい誰がそれを知っていて、それを君達に語って  
 エチヌーレアン クニ エチラム ヘタ ネ ヤ?  
 eci=nuure=an kuni eci=ramu heta nee ya?  
 君達に・聞かせる・人が ように 君達が・思うこそ である か  
 君達が聞かされるように思ったのだ？」【来・散】

### 疑問の文末表現

疑問の文末表現には、名詞や名詞化した動詞でおわるもののほか、副助詞や終助詞を組み合わせたものがあります。

- (1) 動詞の語尾を変化させて名詞化したものは、そのまま疑問文としても使うことができます（例文1）。
- (2) 疑問の終助詞ヤ ya「～か？」は単独で使われることは少なく、副助詞（ヘ he）などと組み合わせて使われます（例文2）。
- (3) ヘタネヤ heta nee ya は疑問表現の際に出てくる固定した言い回しで、文中にも文末にも現れて名詞、助詞、動詞の後につき、ほとんど常にヘタネヤ（ネーヤと伸ばさない）と発音されます。

（例）

オホロ ヘタネヤ、トゥーナシ ヘタネヤ モシヒ ネアンペ…

ohoro heyta nee ya, tuunas heta nee ya, mosihi neanpe…

「(眠っていて) 遅いか早いか (どれくらい経ったか) 目を覚ますと…」

## ステップ44 「～と」引用の表現

(例文)

1. (ハチュフチェヘ) ルプシ コ ハン エー イケ 「オイスー」 ナハ イェヘチ。  
 (hacuhceh) rupus ko han ee ike “oisuu” nah yehci.  
 (ししゃも) 凍る と 否定 食べる して かたい と 言う  
 「(ししゃもが) 凍ると、食べないで『固い』という」【小・散】
  
2. 「フンペ リカ ノシケヘ エトウイェテヘ エーレ ワ。」 ナハ イェー。  
 “humpe rika noskehe etuye teh eere wa.” nah yee.  
 クジラ 脂身 中央 で切る して 食べさせる よ と 言う  
 「『クジラの脂身の真中で切って食べさせなさい』と言った」【鶴・散】
  
3. オマン クン ナハ クラム。  
 oman kun nah ku=ramu.  
 行く はず と 私が・思う  
 「行くはずだと思う」【来】
  
4. アイヌ ポロ スー 「カウセン」 ナハ イェー。  
 aynu poro suu “kawsen” nah yee.  
 アイヌ 大きい 鍋 カウセン と 言う  
 「アイヌ民族の大きい鍋を『カウセン』と呼ぶ」【来・散】

## 引用の表現

誰かの言葉などを引用する表現には、**ナハ nah** を用います。

- (1)相手の発言などをそのまま引用する場合には、**ナハ nah** 「～と」が用いられます（例文1, 2, 3）。
- (2)一般に言われることなど（**A** のことを **B** という、など）をあらわす場合にも、**ナハ nah** 「～と」が用いられます（例文4）。

## 参考文献

文法解説の作成にあたっては、以下の文献を参考にしました。

- 浅井亨（1969）「アイヌ語の文法—アイヌ語石狩方言文法の概略—」アイヌ文化保存対策協議会（編）『アイヌ民族誌』下：771-800. 第一法規．
- 知里真志保（1942）「アイヌ語法研究」『樺太庁博物館報告』4（4）（『知里真志保著作集』第3巻，平凡社，1973所収）．
- 北海道ウタリ協会（編）（1994）『アコロ イタク AKOR ITAK アイヌ語テキスト1』クルーズ．
- 服部四郎（1967）「アイヌ語における年長者層特殊語」『民族学研究』21-3. 誠文堂新光社．
- 服部四郎（1967）「アイヌ語の音韻構造とアクセント」『音声の研究』13号．日本音声学会．
- 金田一京助（1914）『北蝦夷古謡遺篇』郷土研究社．
- 金田一京助（1931）『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』第2巻．東洋文庫．
- 金田一京助・知里真志保（1936）『アイヌ語法概説』岩波書店（『知里真志保著作集』第4巻，平凡社，1974所収）．
- 中川裕・中本ムツ子（1997）『エクスプレス アイヌ語』白水社．
- 中川裕・中本ムツ子（2007）『カムイユカラでアイヌ語を学ぶ』白水社．
- 佐藤知己（2008）『アイヌ語文法の基礎』大学書林．
- 田村すず子（1988）「アイヌ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典』1：6-94. 三省堂．
- 村崎恭子（著）・丹菊逸治（編）（2013）『藤山ハル口述 樺太アイヌ語例文集』（1）北海道大学アイヌ・先住民研究センター．

また、本書に樺太方言の例文・単語を掲載するに当たり、聞き取り調査のほかに以下の資料を主に利用しました。

- 服部四郎（編）（1964）『アイヌ語方言辞典』岩波書店．
- Ohnuki-Tierney, Emiko（1969）*Sakhalin Ainu Folklore*, American Anthropological Association.
- 日本伝統文化振興財団（2008）『アイヌ・北方民族の芸能』．
- 北原次郎太（編）（2013）『和田文治郎筆録 樺太アイヌ説話集』（1）北海道大学アイヌ・先住民研究センター．
- 北原次郎太（編）（2014）『和田文治郎筆録 樺太アイヌ説話集』（2）北海道大学アイヌ・先住民研究センター．
- 北原次郎太・田村雅史・田村将人・丹菊逸治・田村すず子共編（2003）『アイヌ語樺太・名寄・釧路方言の資料—田村すず子採録藤山ハルさん・山田ハヨさん・北風磯吉さん・徹辺重次郎さんの口頭文芸・語彙・民族誌』文部科学省特定領域研究(A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究成果報告書 A2-039. 大阪学院大学情報学部．
- 浅井タケ口述・村崎恭子編訳（2001）『浅井タケの昔話』草風館．
- 日本放送協会（編）（1965）『アイヌ伝統音楽』日本放送出版協会．
- 北原次郎太・丹菊逸治・田村将人（共編）（2003）『樺太アイヌ文化調査報告書』（財）アイヌ文化振興・研究推進機構平成11年度アイヌ関連総合研究等助成事業研究成果報告書．
- 村崎恭子（1976）『カラフトアイヌ語』国書刊行会．



中級アイヌ語 —カラフト—

発行年月 2014年3月  
発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
〒060-0001  
北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・75階  
TEL (011) 271-4171 FAX (011) 271-4181  
URL <http://www.frpac.or.jp> E-mail: [ainu@frpac.or.jp](mailto:ainu@frpac.or.jp)  
印刷 株式会社北海道機関紙印刷所

---

---





公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構